

# 清末小説から 118

2015.7.1

いくたびかの阿英目録10.....樽本照雄 1

《中国通俗小説总目提要》補遺九則.....付 建舟 6

早期漢訳ドーデ「最後の授業」7完 最初の漢訳虞霊「戦後」のばあい.....神田一三16

原作の探索 「夢遊二十一世紀」を例にして.....沢本香子24

「綺羅沙夫人」の原作.....沢本郁馬33

清末小説から24、36

お知らせ 『清末民初小説目録X(エックス)』を準備中。第6版は現在公開中です。後続版ですが第7版ではありません。「X」は最終版という意味も含めております。年末か来年初に罫

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

## いくたびかの阿英目録10

樽本照雄

複数の作品名1 漢訳ホームズのばあい

作品には題名がひとつしかない。そう考えるのは今の時代だからか。

ひとつの作品に異なる題名が複数つけられたまま流布したのは、昔にそうなる事情があったからだ。

近代的印刷技術が中国にもたらされてからは、情況がかわった。普通はひとつの題名で流通し

ている。当たり前のことをいっていると思われるだろう。だが、清末は過渡期だった。1冊の書物のなかで、表紙、扉、本文、奥付に表示される題名が異なることも、ままあったのだ。

そういう例のひとつが、コナン・ドイルArthur Conan Doyleの漢訳ホームズものだ。

原題は、“The Red-Headed League”(1891)である。日本語では「赤髪組合」「赤髪連盟」「赤毛連盟」「赤毛クラブ」などが当てられる。

阿英目録130頁に「紅髪案」がある。比較するためにも以下に引用する。

[阿英130]紅髪案 英 柯南道爾著。湯心存 戴鴻藻合訳。宣統元年(1909)小説進歩社刊。

一方で、同じ阿英目録140頁には「紅髪会」が記録される。『泰西説部叢書之一』(光緒辛丑1901)という作品集のなかのひとつだ。

2作品ともにドイル原作だが、漢訳名と翻訳者が異なる。

そのほか訳名「銀行盜賊」「紅髪会奇案」な

ども別人の漢訳として出た。複数の人によって翻訳刊行されている。それくらい中国人読者に好まれたホームズものらしい。

ここで取り上げるのは、はじめにあげた湯心存、戴鴻藻合訳の「紅髮案」である。

樽目録の出発点は、阿英目録だった。当時は、まとまった目録ではそれしか存在しなかったからだ。新しく書かれた研究論文、あとからまとめられた目録類を注釈に取り入れ増補しながら現在にいたっている。多くの新出資料によって、阿英が記録しなかった細かい箇所が、徐々に明らかになりつつある。

たとえば、前出の陳大康『中国近代小説編年史』全6冊(2014。『編年史』と略す)だ\*27。新聞広告類を大量に収録しており資料的価値が高い。書籍に価格がつけられた事実は、たしかに刊行された証拠にすることができる。刊行予告に終わった書籍もまじっているが、その数は多くはない。

資料がふえれば、それだけその小説についての認識が深くなる。そうなればいいのだが、そうとばかりは言い切れないから複雑なのだ。

ホームズもの「赤髮組合」の漢訳「紅髮案」が、問題を発生させている。

湯心存、戴鴻藻訳の該作品について、従来は、阿英目録の「紅髮案」以外に異なった別の表記は示されたことがない。

比較対照して理解しやすいから陳大康の前著『中国近代小説編年』259頁を見る。

(宣統元年)小説進歩社《紅髮案》, 署  
“(英)柯南道爾著、湯心存、戴鴻藻合訳”

阿英目録と一致している。「(英)柯南道爾著」と明記しているところにご注目いただきたい。陳大康は、阿英目録を参照したように見える。あるいは実物で確認しているのかもしれない。どちらかは、はっきりしない。

そして今回の『編年史』だ。

こちらが奇妙なことになっている。「紅髮案」は出てくるが数がすくない。

篇名索引に「3007紅髮会(訳)」はある。だが、これは別の漢訳であることは説明した。

では「紅髮案」がないかわりに何があるかといえば、索引には「3073歇洛克紅髮社案(訳)1787」だけが見える。

「紅髮案」である阿英目録からいえば、「歇洛克紅髮社案」ではあまりにも違いすぎている。歇洛克(シャーロック)がついて「紅髮」といえば、たぶん同じ原作だろう。しかし、「紅髮社案」となると「社」1字が余分だ。誤植なのか。

『編年史』1787頁(宣統元年(1909)四月)の項目には、次のように説明している。

[編年 1787]《歇洛克紅髮社案》, 署“英国柯南道爾著, 湯心存、戴鴻藻合訳”。

上の記述は、書籍広告による、と微妙な書き方をしている。しかし、陳大康が引用した広告に出てくる「歇洛克紅髮社案」には、原作者、訳者の名前はともに見えない。ただ「一冊洋二角」と価格が表示されているだけなのだ。ドイルとか湯戴たちはどこから引っぱってきたのか。説明がない。奇妙だという理由である。

『編年史』に採録された各種新聞などの関連広告を下に示そう。

[編年 1748]「歇洛克紅髮案」『時報』1909.5.10鴻文書局広告

[編年 1767]「歇洛(克)紅髮案」『民呼日報』1909.5.21鴻文書局広告

[編年 1787]「歇洛克紅髮社案」宣統元年(1909)四月小説進歩社出版書目

[編年 1800]「紅髮案」『民呼日報』1909.7.13鴻文書局広告

[編年 1870]「紅髮案」『時報』1909.10.20鴻文書局広告

- [編年 1913]「歌洛克紅髮案」『神州日報』1910.1.2鴻文書局広告  
 [編年 1947]「歌洛克紅髮案」『時報』1910.2.19上海鴻文小説進歩社広告  
 [編年 2137]「歌洛克紅髮案」『時事報』1911.2.2小説進歩社(総発売處鴻文書局)広告



中国の新聞に掲載された出版広告、あるいは出版社の広告は、ひとつの特徴を有している。つまり、自社が出版する刊行物だけを掲載しているわけではない。他社が刊行した書籍も宣伝する。



注意点のもうひとつは、書名の一部を省略するばあいがある。「巴黎茶花女遺事」を「茶花女」に、「黒奴籲天録」を「籲天録」とか書くのは普通のことだ。

上の小説進歩社(住所:上海棋盤街中市)と鴻文書局(住所:上海英大馬路恩慶里)とは、業務提携をしているらしく同時に出現することがある。



これらの広告には、原作者も訳者も見えない。手がかりは、わずかに出版社名と題名の「紅髮案」くらいだ。

これと前出の陳大康による説明を重ね合わせる。阿英目録の「紅髮案」は、どうやら「歌洛克紅髮案」あるいは「歌洛克紅髮社案」と同一作品であるらしい。

しかし、ここではあくまでも推測にすぎない。書名が異なれば、目録には別々に採録するか、何かの説明をしなければならいだろう。陳大康は、説明しない。もしかすると、彼は漢訳そのものを実物で確認していないかもしれない。

『紅髮案』ウェブより引用

書名の異なる漢訳をどう取り扱うのが適切か。頭を悩まさざるをえない。

表紙は「偵探小説 / 歌洛克紅髮案 / 小説進歩社」、本文冒頭に「偵探小説 / 歌洛克紅髮社案 / 湯心存、戴鴻藻同訳」、奥付は「紅髮案、訳述者:小説進歩社 宣統元年三月出版 / 同年四月發行」

電脳の鍵盤を数回たたいたただけで問題はあっさり解決してしまった。

書名について、表紙、本文、奥付の表示がす

念のためウェブを検索してみると孔夫子旧書網に写真がある。画像が小さいが眼をこらせば、判読できないこともない。

べて異なることがわかる。「歇洛克紅髮案」「歇洛克紅髮社案」「紅髮案」の3種がある。

阿英は、それらの中から「紅髮案」を選んだようだ。

原作者名の記載は、ない。これが事実だ。書名とともに、のちの研究者が、存在しない柯南道爾を「ある」と明記したのは、阿英の記述が原因である。

陳大康は、大量の新聞広告を収録しながら、書名の違いに気づけなかったのか。阿英目録に掲載されている「紅髮案」との関係を解明する考えはなかったようだ。

「紅髮案」については、阿英が親切心から注記した柯南道爾がたまたま一致していた。

だが、そうとばかりはいえない例もある。

林紓、魏易同訳『英国詩人吟辺燕語』(商務印書館1904)だ。シェイクスピア原作を小説化したラム姉弟の名前は、原本にはもともと存在していない。林紓は、「英国莎士比著」と記した。これが本来の表示である。

阿英は、『吟辺燕語』の原作がラム姉弟のものであることを知っていた。だから、漢訳原本に実在する「英国莎士比著」を無視したのだろう。まったくの親切心から(だと善意に解釈するが)自分の判断で「英蘭姆著」と記録した([阿英124])。余計なことだった。どうしてもラムを出したいのであれば、「英国莎士比著」を残し、そこに注記する。それが目録編集上の原則ではなかろうか。

ホームズ関係で、もうひとつ阿英の誤記を指摘しておきたい。

#### 複数の作品名2 贗作ホームズのばあい

阿英目録の該当箇所を示す。

[阿英159]福爾摩斯最後之奇案 英 柯南道爾著。白侶鴻訳。光緒三十三年(1907) 飛鴻閣刊。

阿英目録は、角書を採録しない。そういう編集方針らしい。今でも阿英流を守る研究者はいる。

阿英は、ここでも「柯南道爾(コナン・ドイル)」だと明記している。だれも、これが贗作ホームズものだとは思っていない。唯一の例外は中村忠行だ。1978年に贗作だと推測した。しかし、1998年になってもEVA HUNG(孔慧怡)は、ドイルのホームズもの「最後の事件 THE FINAL PROBLEM」(1893.12)としていた。

どれくらい誤解が根強く継承されたのか、ざっと掲げてみよう。

[漢訳2418]角書不記、(英)柯南道爾著と誤る、また

上海・新世界小説社1907(光緒三十三年)

[現代905](英)柯南道爾著、飛鴻閣1907とする

[中村S2-37]角書不記、贗作、未見

[大典141]柯南道爾著と誤る

[丁未8]は「福爾摩斯最後案」、四月出版とする

[版補下417]「福爾摩斯最後案」、世界小説社

[涵訳71]翻訳と誤る、角書不記、桐上白侶鴻訳、光緒三十三年

[版補下371]角書不記、桐上白侶鴻訳、光緒三十三年

(寅半生「小説閑評」は「福爾摩斯最後案」とする[編年 1288])

[阿研501]刊年不記(小説林3期新書紹介、陶高能(SIR A.CONAN DOYLE)所著[編年 1265]著名小説家陶高能(SIR CONAN DOYLE)とする

[阿研512]刊年不記

[劉晚245]

[慧敏458]四月

[祖毅714]

[偵探606]角書不記、((英)柯南<sup>マ</sup>・道爾著)

『小説林』第3期といえは1907年の刊行だ。当時からドイルの著作だと紹介されていた。阿英が、自分の目録に陶高能ではなく柯南道爾と記述した根拠らしきものは以前に存在していた。陳大康『編年』あるいは『編年史』はどうか。

- [編年203]署「(英)柯南道爾著,白侶鴻訳」飛鴻閣、  
光緒三十三年
- [編年 1239]偵探神聖「福爾摩思最後之奇案」『中外  
日報』1907.5.31広告
- [編年 1248]角書不記、上海・新世界小説社、光緒三十三年(1907)四月出版
- [編年 1248]角書不記、上海・飛鴻閣、光緒三十三年(1907)四月出版
- [編年 1549]偵探小説、『浙江日報』1908.6.29改良小説社寄售廣告
- [編年 1554]『中外日報』1908.7.11鴻文書局廣告
- [編年 1574]『中外日報』1908.8.11鴻文書局廣告
- [編年 2168]「福爾磨(摩)斯最後(之)奇案」『膠報』  
1911.4.8小説賃貸社第三次廣告
- [編年 2478]翻譯介紹。樽本注：創作
- [編年 2928]飛鴻閣、光緒三十三年版

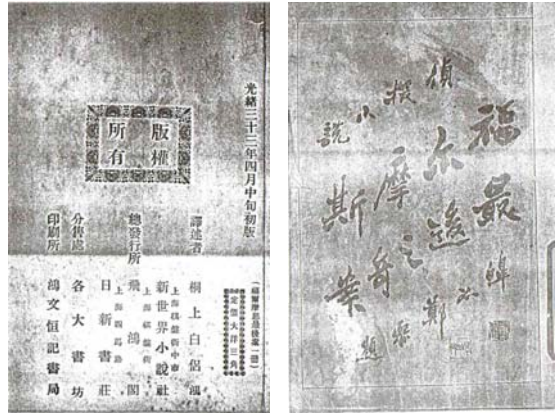
以前の『編年』は、阿英目録の該当部分をそのまま引用したらしい。

問題は、1248頁に重複して出現していることだ。上海・新世界小説社と上海・飛鴻閣の2社が同年月に出版したことにした。別々の出版社が、同時に同じ書籍を刊行したことを意味する。陳大康は、奇妙だと思わなかったのか。よくわからない。

新聞広告の書名が省略される、または誤植が出ることがある。2168頁の「福爾磨(摩)斯最後(之)奇案」という表記は、カッコ内に陳大康による訂正を示す。書名は「福爾摩思最後之奇案」ひとつだけだと彼は判断しているからの処置に違いない。

『中外日報』の広告に内容紹介がある。また、寅半生が「小説閑評」で紹介している。それをまとめて収録したのが、2478頁の翻譯介紹だ。陳大康は、該作品をホームズものの翻譯だと考えているから翻譯に分類したわけ。「樽本注：創作」とつけたのは、翻譯ではなく贋作ホームズ、すなわち創作だという意味である。

「福爾摩思最後之奇案」を見てみよう。



『福爾摩斯最後之奇案』

(偵探小説)福爾摩斯最後之奇案 22節  
白侶鴻訳述

上海・新世界小説社、上海・飛鴻閣、上海・日新書莊 光緒33.4中旬(1907)

柯南道爾の記載は、ない。表紙と目次は「福爾摩斯最後之奇案」、本文は「福爾摩斯之最後案」、柱と奥付は「福爾摩斯最後案」である。

ひとつの作品に3種の標題が存在している。今まで流通しているのは、その中の表紙と目次に記されたものであった。

ホームズは登場するが、 Doyle とは何の関係もない。贋作ホームズという理由である。

ついでに述べておく。上海図書館に所蔵される該書は、2カ所に欠陥がある。1カ所はノドの部分に密着しており2行分を読むことができない。もう1カ所は、ページが破り取られており1葉2頁分が紛失している。ホームズが殺人犯を取り押さえる重要な部分だ。ここを失っては、読者の怒りと落胆を招くだろう。 罍

【注】

- 27) 書評を書いた。樽本「清末小説年表の最新成果 陳大康『中国近代小説編年史』について」『東方』2015年2月号(第408号)2015.2.5、30-35頁。要旨：書評。清末小説年表であり貴重な資料集でもある。次の注目点(瑕瑾3件)を指摘する。『繡像小説』発行遅延説、海賊版『官場現形記』、商務印書館版「説部叢書」。小さなキズは資料集としての価値を損なわない。

### 《中国通俗小说总目提要》补遗九则

付 建舟

**内容提要** 《中国通俗小说总目提要》是一部重要的通俗小说工具书，收录甚多，然而由于当时条件的局限，难免遗漏。今据笔者所见，在补遗八则后，再补遗九则。

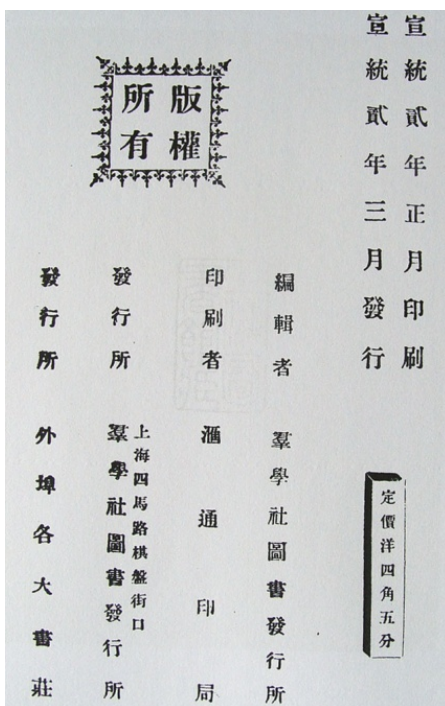
**关键词** 中国通俗小说总目提要 补遗 九则

《中国通俗小说总目提要》(以下简称《总目提要》)是一部关于中国通俗小说的难得的大型工具书，然而仍有不少遗漏，今据笔者所见，在补遗八则后，再补遗九则。《总目提要》的“体例”是“一书一题”，每题由书名、作者、版本、内容提要 and 回目五个部分组成，《补遗九则》大致依其体例，略加变动，收录小说序跋以取代“内容提要”。现依笔者所知作品最早问世时间为序，予以叙录。

#### 一、新封神传

《新封神传》，原载《月月小说》第一年(1906)第一、二、三、四、七、十号，光绪32.9.15-33.10[.15] (1906.11.1-1907[.11.20])。题“滑稽小说”，连载十五回。作者署“大陆”。后出版单行本，光绪戊申(1908)群学社刊，凡二十回(阿英：《晚清小说目》)，笔者未见。所见为群学社宣统贰年版本，该版本遵循原刊版式，只是加装封面与版权页。版权页署宣统贰年

(1910)正月印刷，宣统贰年(1910)三月发行，编辑者为群学社图书发行所，印刷所为汇通印局，发行所为群学社图书发行所(上海四马路棋盘街口)与外埠各大书庄。全一册，160页，定价洋四角五分。群学社“说部丛书第二十七种”。【上海图书馆藏】



《总目提要》依据《月月小说》刊本，“仅见十五回”。笔者所见版本凡二十回，有回目，无序跋，回目依次为：

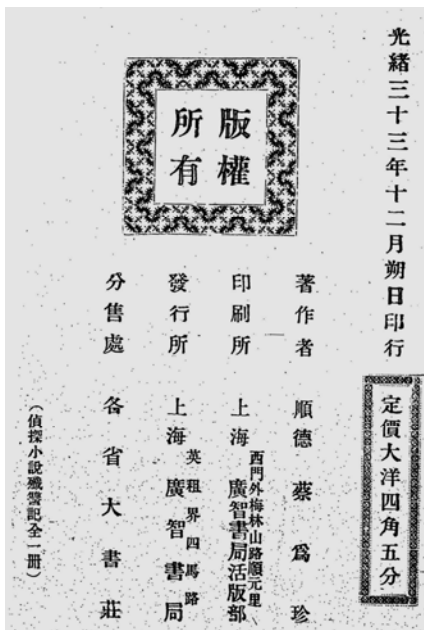
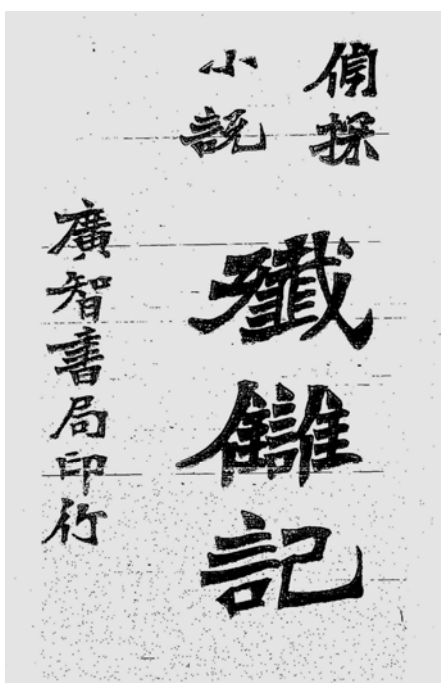
- 第一回 罗刹国子牙再封神 南非洲侨民入黑狱
- 第二回 元始天尊大展法力 净坛使者又抱孤鸾
- 第三回 趋时髦改变洋装 讲运动坐卧安乐
- 第四回 吃牛肉力劝开荤 学方言秘传捷径
- 第五回 世态炎凉龙王借债 事情仓卒八戒拔毛
- 第六回 老学究看报吃惊 留学生捕房作贼
- 第七回 坐火车雷奔电掣 说大话海阔天空
- 第八回 一本万利官场现形 嚼字咬文腐儒受辱
- 第九回 商善赞巴结西装客 朱不呆急求外国医
- 第十回 洋大人警局索要犯 商善赞置酒陪小心
- 第十一回 碰道台善赞趋势 游上海子牙见妖
- 第十二回 拾维新屁富翁解囊 吃学堂饭子牙入瓮
- 第十三回 设中立学究做总理 打连手帐房要除头
- 第十四回 自由车难过夫人城 革命军断送留学界
- 第十五回 谈故事挖着痛疮眼 荐教习打倒酸醋瓶
- 第十六回 分束修利益均沾 回讲义文章有价
- 第十七回 广结交酒馆盟心 苦营求账房屈膝
- 第十八回 编教科书八戒倩代抢 瞎问难子牙貽笑柄
- 第十九回 姜校长杯挤出学堂 猪天篷改途作巡检
- 第二十回 结封神子牙归位 捐道台八戒投胎

## 二、歼仇记

《歼仇记》，封面题“侦探小说歼仇记”，“广智书局印行”。版权页署“著作者 顺德蔡为珍”，“印刷所 上海广智书局（西门外梅林山路顺元里）”，“发行所 上海广智书局（英租界四马路）”，“分售处 各省大书庄”。光绪三十三年（1907）十二月朔日印行。全一册，172页，定价大洋四角五分。《总目提要》未提及。【中国国家图书馆藏】

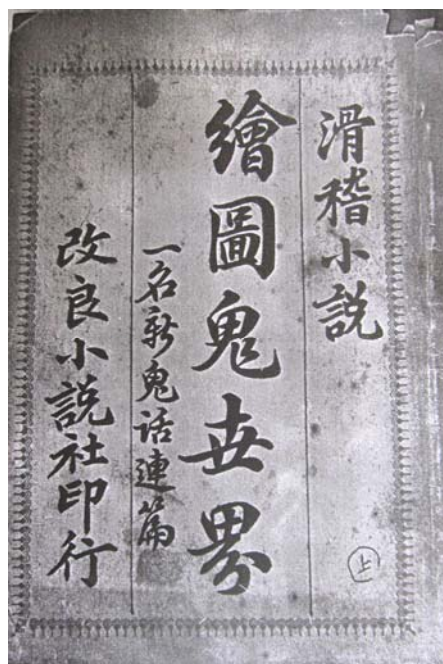
全书不分章节，卷首有顺德蔡为珍啸簨氏于光绪丙午（1906）嘉平月于沪北人镜之大我堂所撰写的“序”，其文为：

庚子之役，避乱南旋，道出汴梁，偶游相国



寺，见有设几售故事者，就而翻阅，以贱值购得十卷，目曰《巾幗奇男演义》。归寓遂置之，泊首涂，携诸驮轿中，日尽二三卷，用召睡魔。未至彰德，披览已毕，始知是书即《萤窗异草》所载马青鸾轶事，而俗笔俚词为多，甚至满纸葛藤，几难句读。中又间以雅饰之文，若出两手，益复不称，诚不知其何以然也。虽然其，弊不过艰于达意，而叙事犹近征实，视《萤窗异草》之托於

神仙鬼魅，以震炫庸耳俗目者，不可同日语矣。羈旅多暇，爰综其大旨，仍其层节，删润为一卷，仅变易文体，而其事其人悉依其旧本，不敢臆造，惧乱其真也。原书册旧久假不归，未获捡对，风朝雨夕，忆而笔之，原书字数不逮远甚，然而箕意则已尽矣。稿脱，命为中国女侦探《歼仇记》。夫时贤所译侦探小说，非不情节离奇，词章彬蔚，顾皆他邦警政，因事札记，徒资谭助，无与於我国风俗之改革，社会之劝惩也。兹编所述马氏，以女子好武，誓复父仇，而蓄志数十年，旅行数千里，卒偿大愿。中间历险阻，穷机变，心志坚忍，百折不回，较诸泰西侦探专门，形式虽所不同，精神岂遑多让哉？既编次其颠末，并系之以论，俟世之读侦探小说者定评焉。



### 三、鬼世界

《鬼世界》，封面题“滑稽小说”、署“绘图鬼世界”、“一名新鬼话连篇”、“改良小说社印行”。目录页首署“青浦陆士谔戏撰”。绘图十幅。改良小说社“说部丛书”之一。上册两册，上册二十叶，下册未见。【河南师范大学图书馆藏】

《总目提要》在《鬼国史》条目下援引阿英《晚清小说目》：“陆士谔著。一题《新鬼话连篇》。六回。光绪三十四年（1908）改良小说社刊。二册。”并标明“六回”、“未见”。由此看来，《总目提要》把《鬼国史》等同于《鬼世界》，现权且如此，予以备载。不过二者究竟是否是同一部小说，待考。

笔者所见的《鬼世界》上册共三回，但载上下两册六回的回目，依次为：

- 第一回：月球人初订商约 阴钦使妄肆淫威
- 第二回：破酆都阎罗王出走 立条约各口岸开通
- 第三回：小头鬼谋差纳贿 阎罗王下诏求贤
- 第四回：省城隍专折荐新党 邝大臣奉旨开学堂
- 第五回：卤莽少年侈谈革命 野蛮教士刺死城隍
- 第六回：文穷鬼充当译员 阎罗王预备立宪



卷首有《鬼世界序》，兹录如下：

青浦陆君士谔，字云翔，一称沁梅子，当今豪杰之士也。慷慨有大志，俯仰不凡，而不得遇于时，乃遂泼墨挥毫，日以文章白娱。著述山积，出版风行。其健著如《英雄之肝胆》、《东西伟人传》、《日俄战史》等，议论之卓绝，笔墨之雄健，实足推倒一世，开拓万古，班、马以来，未之有



也。晚近更喜为小说家言，著有义侠小说《滔天浪》[载张汶祥刺马新贻事实]；历史小说《精禽填海记》[载明末福、唐、桂三王，台湾郑氏父子事实]；言情小说《文明花》、《鸳鸯剑》；社会小说《鬼域世界》等诸种，嬉笑怒骂，各极行文之妙。每稿甫脱手，而书贾已争相罗致，盖印行君书者，莫不利市三倍，故争之惟恐或失也。乃者复有滑稽小说《鬼世界》之作，余受而读之，见其设想之离奇，措辞之敏妙，微特旧小说界所未见，抑亦新小说界所仅有也。诙谐处，足破积闷；爽快处，足医钝疾；雄浑处，足壮精神；严厉处，足端心志。西哲有言，移易性情，变化气质，惟小说之效力为最速，吾读此书而益信。呜呼！是书真有功世道之文哉。光绪丁未仲夏，古黔江剑秋序于海上之嘯虹草堂。



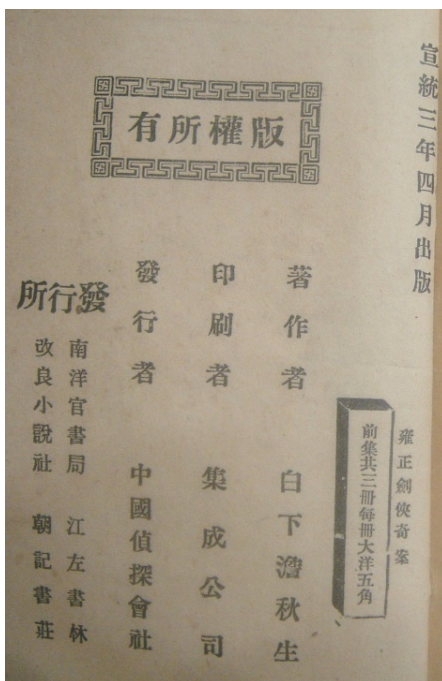
#### 四、雍正劍俠奇案

《雍正劍俠奇案》，封面題“俠義小説”，署“雍正劍俠奇案”、“中國偵探會社印行”。目錄頁與正文首署“俠義小説雍正劍俠奇案”，有繪圖。版權頁署宣統三年（1911）四月出版，著者白下澹秋生，印刷者集成公司，發行者中國偵探會社，發行所南洋官書局、江左書林、改良小説社、朝記書莊。前集共三冊每冊大洋五角。《總目提要》署“未見”。【浙江圖書館藏】

前集三冊，第一冊九回，第二冊八回，第三冊七回，合計二十四回，均有回目。第三冊目錄未署“此系一、二、三冊念四回，尚有四、五、六冊念四回隨後出。”筆者未見。前集回目依次為：

##### 第一冊

第一回：故事奉行官吏捕盜 傾心結客兄弟留賓  
 第二回：見危難拔刀助孤客 提旧恨借劍殺仇人  
 第三回：濮知縣借端輕索賄 呂廷獻御盜痛亡身  
 第四回：錢師爺幕中施密計 陶健侯助友走他鄉  
 第五回：知恩報恩長途聘友 因義及俠士探監  
 第六回：太行山老尼教劍術 盤山驛豪客戮金人



第七回：蕭通庵單身平巨寇 楊大洪千里覓恩師  
 第八回：田大郎演說烏風寨 蕭勇士驚賊降童山  
 第九回：渾府尹當堂受諷刺 奇女子暗地寄刀函。  
 第二冊  
 第十回：誅雙熊救取采參客 斬妖蟒援手獵兽人  
 第十一回：看壁詞神龍再見首 獻武技猛虎兩傾心

第十二回：倾肝胆当筵发浩歌 纵反问奇谋操胜算  
第十三回：受巨创夷虜熄余烬 明大义敌国献刀环  
第十四回：驰书柬老者取巨金 试珍奇回人识异宝  
第十五回：施奸计假佛济涂毒 破阴谋困女出樊笼  
第十六回：论英雄楚霸王赠药 救佳丽云万里烧山  
第十七回：破风水斩妖观音岩 大报仇喋(喋)血  
关王庙

### 第三册

第十八回：风云会合黑狱翻身 日月重明皇天开眼  
第十九回：酬大功朝廷锡显爵 奋异绩湖海斩神蚊  
第二十回：觅妻孥身陷三面网 毙贼盗手演连珠枪  
第二十一回：佛寺逢灾老人救难 空山较艺侠女留名  
第二十二回：辨恩仇英雄恋儿女 赏忠直学士作将军  
第二十三回：现真形贪官遭挫折 标劲节烈妇阐幽光  
第二十四回：毒中毒条虫种因果 拐上拐县印惹风波

卷首有冯涛撰写的“序”，次作者“自序”，次“题词”（其中皖桐子畴方寿祺所题的五言长诗一首，昆陵陈鸱于白下之韬园所题无言律诗二首，白门女士蒲仙周墨亭所题七言律诗二首，江陵女士陈剑如所题无言律诗二首），次“缘起”。冯序兹录如下：

余谓近时说部中，如《品花宝鉴》，则清华典丽者也；如《禅真逸史》，则飘逸淡泊者也；如《金玉姻缘》，则缠绵香艳者也；如《儒林外史》，则讽刺刻峭者也。至于激昂慷慨，嵌崎磊落，则莫如《野叟曝言》为最焉。余读其书，想见其抑郁牢骚之气，无可舒写，特借此而吐其胸中之蕴蓄矣。秣陵澹秋生与余为旧交，性嗜书，遇辄披阅，弱冠即腹笥便便。其兄顾曲生，琳琅缥緲，百城坐拥，生则蹈瑕抵隙，恣情浏览。有暇更寝馈其中，以是所学愈宏富。年二十余，始学为文，三试始得一衿，而年已三十矣。但其生性，雅不欲于制艺中求生活，必究心于淹博。既壮，家食不遑，饥驱奔走。顾其性脱落，小节不拘，坐是不能遭伯乐。而生兀傲之气，又不屑低首下心，以求合于当道。是以茧足奔驰，垂青卒鲜。然其胸中嵌崎磊落、抑郁不平之概，盖有与年俱长者矣。岁戊申，就师范学舍编辑之聘。公

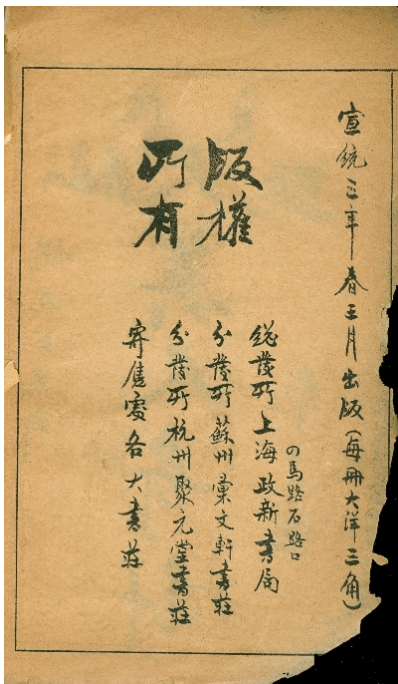
余之暇，辄拈弄笔墨，所作诗词杂著甚夥，又戏编《剑侠奇案》六集。余披阅之，觉其激昂慷慨，舒写不平，可以与《野叟曝言》并称。虽然，《野叟曝言》佳则佳矣，特其诙奇诡异之处，有出乎情理之外者，而描摹猥褻淫荡之文，又为世所诟病，故不若此书，虽嵌崎而仍归中和，磊落而仍归纯正。其事迹虽近附会，要皆范于情理之中，而不越乎规矩之外，此所以有过之无不及也。既脱稿，仅有前集。余读一过，笔致离奇，文情恣肆。其描写处如禹之铸鼎，温之然犀，变化吞吐之势，又令人不可测度。倘置之社会中，仍可以惩劝世俗，针砭愚顽。乃忝愚付梓，以馈赠同好。况近今各家小说层出不穷，优劣之品评既淆，酸碱之嗜好有别，安见此书不可风行一世乎？故略叙数语，以质之有嗜痂之癖者。

宣统二年九月，金坛冯焘叙于白门旅次

### 五、新美人计

《新美人计》，封面署“新美人计”。内封署“改良仙人跳新美人计”、“惜花外史辑”。“燮记书庄印行”。目录页与正文首署“绘图改良仙人跳新美人计”，有绘图。版权页署宣统三年(1911)春五月出版，总发所上海政新书局（四马路石路口），分发所苏州汇文轩书庄与杭州聚元堂书庄，寄售处各大书庄。每册大洋三角。《总目提要》未提及。【北京大学图书馆藏】

凡十六回，有回目，无序跋。回目依次为：  
第一回：满罪期初出西牢 谋生活又生狡计  
第二回：汤阿招再搭仙人跳 尤老骚生啖脚鱼头  
第三回：施妙法暗撩春兴 下强手大起骚风  
第四回：搬枕头狡妇拒奸 假拼命老骚人套  
第五回：尤老骚排难解纷 汤阿招装腔做势  
第六回：出钞票阿招订佳期 错门户老骚遭毒打  
第七回：捉奸人躲楼梯旁 风流罪套马桶盖  
第八回：小同事门前调笑 老骚精院里寻欢  
第九回：促狭鬼作文嘲雉妓 龟家奴用计赚老骚  
第十回：雏雉含羞当场出丑 老骚逞性一箭双雕



### 六、女界風流史

《女界風流史》，封面題“繪圖女界風流史”、“艷情小説”、“青浦陸士諤著”。據悉，該書由上海・大聲小説社于宣統三年（1911）五月出版。本冊為卷上，卷下未見。版權頁信息不詳。而《總目提要》稱“宣統三年（1911）五月大聲小説社出版，二卷十二回，今見下卷”，二者剛好互補。【首都圖書館藏】

卷上凡六回，有回目，依次為：

- 第十一回：為探情阿招驚竊賊 凶追賊阿二下捕房
- 第十二回：見賊纵賊反被賊欺 凶罪問罪又当罪犯
- 第十三回：麦家圈巧遇冤家 怡珍居又议密約
- 第十四回：老骚重订结婚期 阿招再布迷魂陣
- 第十五回：尤老骚登楼踐約 钱阿二人室捉奸
- 第十六回：立笔据夫妻割爱 庆团圆美人脱身

- 第一回：破黑獄風流史開場 登白簡中丞公解組  
 第二回：游張園無心遇浪子 回公館有意息蕭娘  
 第三回小滑頭沿途吊膀子 鄉曲辨初履夜花園  
 第四回：特別室雙開姊妹花 碧草叢中并織鴛鴦錦  
 第五回：赴佳期棧道明修 奉密約藍橋暗渡  
 第六回：遇胞兄意外受奇驚 謝媒人同床圓好夢

卷首有《創辦大聲小説社緣起》，其文為：

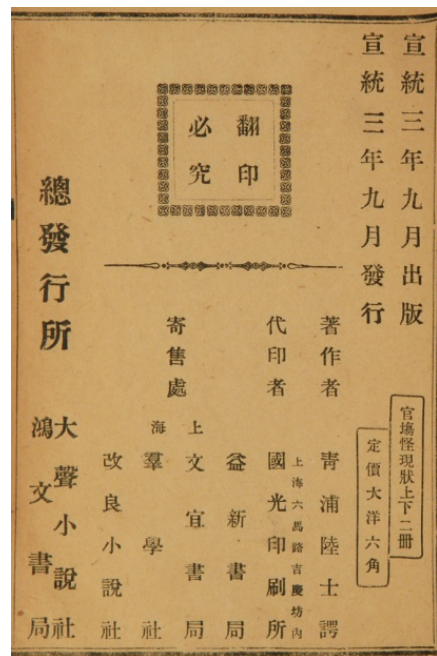
小説之力，足以左右風俗，鼓吹社會，敦進國民之品性，催促政治之改良，不僅茶余酒後供人談笑已也。歐美各國知其然，故獎勵小説不遺余力，而國勢亦蒸蒸日上。試翻各國文學史，其中占大部分者，何莫非小説家言？此可證也。迺來，吾國亦頗知小説之足重，新小説社風起水涌，新小説家雲合霧集，顧所出不及千種，而大半均係譯本，甚不合現今之社會，其無補助匡救之功也，又奚足怪！同人慨焉，爰特糾資，創設大聲小説社，延請小説大家青浦陸士諤先生為總編輯員，分聘名流，共襄撰述，陸續出版，以饒邦人。是舉也，于諸君子進德修業，或有萬一之助乎？是則同人所默禱者也。

## 七、官場怪現狀

《官場怪現狀》，封面題“繪圖官場怪現狀”。版權頁署宣統三年（1911）九月出版，宣統三年（1911）九月發行。著作者青浦陸士諤，代印者國光印刷所，寄售處上海文宜書局、群學社與改良小説社。總發行所大聲小説社與鴻文書局。有繪圖數幅。上下兩冊，定價大洋六角。《總目提要》署“未見”。【北京師範大學圖書館藏】

該書邊框外署“初集下卷”，卷末空白頁署“官場怪現狀集初下卷終”，“集初”可能為“初集”之誤。本卷一冊，凡五回，有回目，無序跋，回目依次為：

- 第六回：呆公子藩署碰茶碗 汪太太(官)厅拜干娘  
 第七回：勘盜案失主吃虧 告強奸本夫被押  
 第八回：雙烈婦畢命一條繩 大復仇手刃廿四命  
 第九回：小百姓忍飢送禮 大老爺酒醉揮拳



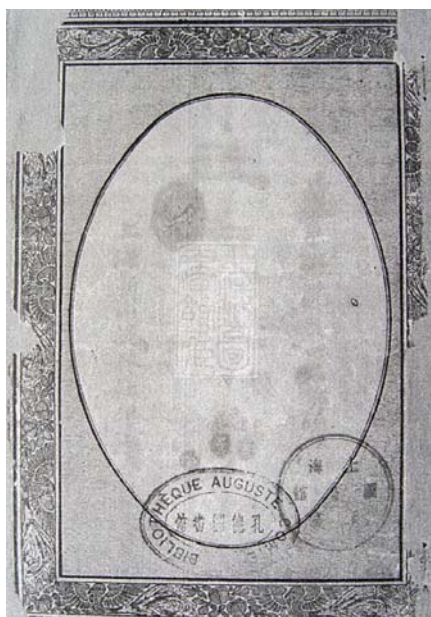
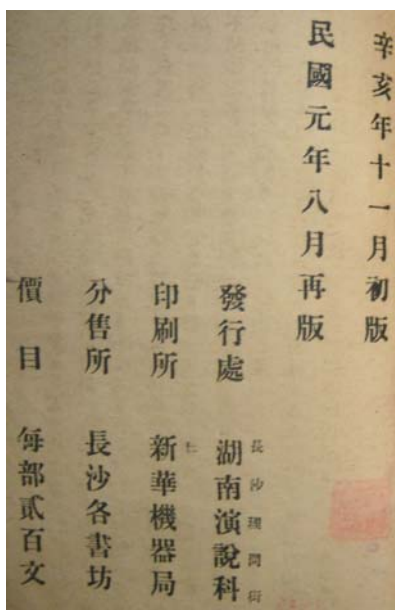
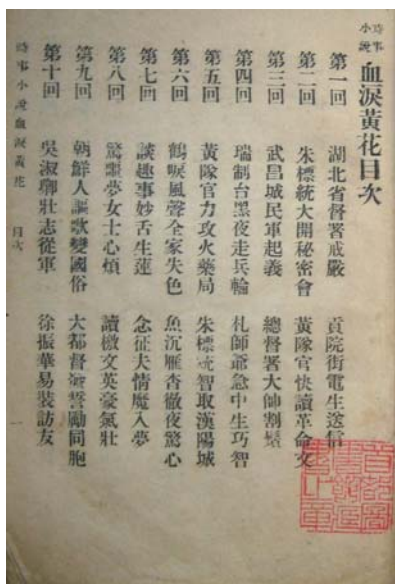
第十回：狐公館姨太逞威 綉美軒小子中計

初集上卷五回回目依據陳大康《中國近代小説編年史》第五冊第2289頁補錄如下：

- 第一回：金大令奉調入公所 汪別駕信口講官經  
 第二回：工修飾姨太發異想 上衙門老爺試新妝  
 第三回：稱兄道弟知州結場隨 冷語熱情廚子認侄兒  
 第四回：辨烟味太尊嗅屁 慶生辰藩署開筵  
 第五回：見香蕉歡天喜地 行壽禮作對成雙

## 八、血泪黄花

《血泪黄花》，(一名《鄂州血》)，青浦陆士诤撰。笔者所见有两种版本，其一为再版本，版权页署辛亥年(1911)十一月初版，民国元年(1912)八月再版。发行处为湖南演说科(长沙理问街)，印刷所为新华机器局，分售所为长沙各书坊，价目每部贰百文。正文排版与初版相同。【首都图书馆藏】《总目提要》就是根据该版本收录回目和撰写内容提要的。



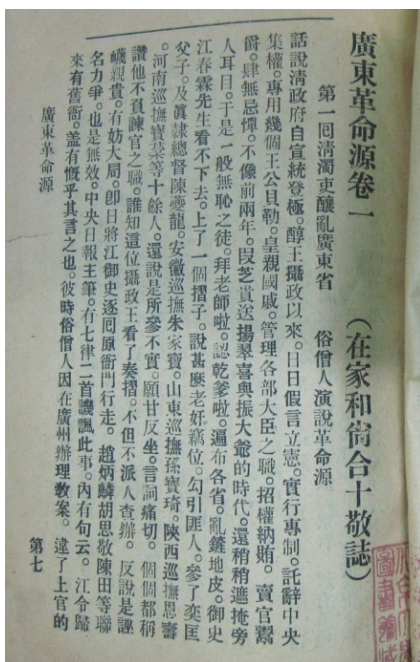
其二为初版本，上海新小说林社(南洋官书局内)辛亥(1911)十一月出版，分售处为改良小说社、集成图书公司、南洋官书局。分两册，每册六回，合计十二回，共92页，定价大洋八角。【上海图书馆藏】《总目提要》称“阿英《晚清小说目》收录宣统三年(1911)新小说林社刊本，未见。”

该版本目录与正文首均题“时事小说”，有回目，无序跋。回目、正文排版与再版本完全相

同。回目从略(《总目提要》根据再版本已收录),只录封面与版权页。

再版本卷首有作品的内容提要,其文为:

此书叙一陆军毕业生,姓名叫做黄一鸣,在湖北新军充当队官,与徐振华女士定有婚约,尚未完娶。值去岁八月,湖北起义,黄一鸣踊跃赴战,徐振华男装相从,连战皆胜。后黄一鸣战猛受伤,赖徐振华极力调护,得以不死。仍赴前敌,卒成大功。此本书之线索也。其叙八月十九起义时,清督瑞澂之抱头鼠窜,黎大都督之慷慨誓师,众同胞之热忱助饷,各军人之义勇无前,无不着色如生,踊跃欲动。本科为输入共和理想,普及军事知识起见,特翻印二千部,廉价发售,每部取纸工钱贰佰文,凡我同胞国民,节不可不一读也。



### 九、广东革命源

《广东革命源》,卷首“例言”前的书名“广东革命源”下方署“在家和尚合十敬誌”。“例言”后之“广东革命源目录”,凡三十六回。正文首题“广东革命源卷一”。本卷十四回,一册,86页。其他二十二回未见。无版权页。陈大康《中国近代小说编年史》认为该作属于宣统三年辛亥(1911-1912)出版的作品,暂从其说,备录,待考。《总目提要》未提及。【北京大学图书馆藏】

全书凡三十六回,有回目,依次为:

- 第一回: 清浊吏釀亂廣東省 俗僧人演說革命源
- 第二回: 禁賭紀念張制府画像出游  
演放飞船孚將軍中槍斃命
- 第三回: 二十九日起旗攻飞来庙  
七十二人殉國葬黃花崗
- 第四回: 燒衙門張督扒牆頭 弃衣冠陳藩抱佛脚;
- 第五回: 酬救命恩李提穿黃馬褂  
叙警察功王道賞巴圖魯
- 第六回: 龍濟光倉卒來粵 李世桂及覆求榮
- 第七回: 防營擄掠民財統領削職



- 警道查封房屋议局抗言
- 第八回: 李提中炸彈不死 江紳下札文示威
- 第九回: 鐵路国有銀行大起風潮  
武漢光復民黨驟增勢力
- 第十回: 吃炸彈風留守捐軀 樹國旗龍軍門抗斗
- 第十一回: 馬寧慶戰江紳冒功 酒肉免捐張督取巧
- 第十二回: 陳炯明起兵拔惠郡 陸蘭清揚言攻省城

第十三回：北京通电谣传两官蒙尘  
前山戍师瞬息全军告变

第十四回：张制军夜半走沙面 李水提首先竖白旗

第十五回：蒋尊口为临时都督 胡汉民驻城外办公

第十六回：卷逃公款陈方伯首称巨擘  
抛弃家私王提法枉费苦心

第十七回：预备仰药文宗食言 羞愤悬梁节庵遇救

第十八回：龙统制出示安人心 李总兵移营受奇辱

第十九回：黎建侯出狱即日招兵  
吕芋依还家半途遇害

第二十回：炸咨议局幸胡都督先入城  
劫水提署迫李军门早出港

第二十一回：龙伯纯暂当教育长委札力辞  
王叔夜曾任南邑侯日报更正

第二十二回：陈景华禁赌有效 张承德树党被擒

第二十三回：扎海棠寺民兵日繁  
祭黄花岗士女云集

第二十四回：民军人废将军署旗军胆寒  
政党用保皇党人新党齿冷

第二十五回：汤龙川二十余命殉节  
李新宁五千两银赎身

第二十六回：部下哗溃赵总兵轻生  
民党报仇陈太守惨死

第二十七回：彭言孝吞饷遇追兵  
李保林拘囚失幼女

第二十八回：三都督初开大会议  
旧统制再致告辞书

第二十九回：编制民团良莠同化  
误会冲突主客复和

第三十回：组织政府丘逢甲赴会  
收复南京黎天才有功

第三十一回：富贵楼讨债惊散花枝  
城隍庙求签推翻木偶

第三十二回：剖心肆虐新政府出示拿人  
插耳游刑旧营勇犯知罪

第三十三回：搜查军火多宝街勇夜战  
捉拿汉奸鸣凤巷娼妓株连

第三十四回：廖女士领袖劝捐 蒋管带枪械舞弊

第三十五回：孙文返国黄兴卸肩

袁氏专权载澧避位

第三十六回：陈炯明权理都督 龙济光屡改行程

卷首有“例言”，兹录如下：

一、是书仿小说体例，专以扩张民权、巩固汉土为宗旨。

一、是书专为中人以下说法，故不用文言，只用俗语，阅者谅不以浅率见责。

一、是书专记广东一省之事，故名《广东革命源》。然实由于中央政府腐败所致，直可谓之中国革命源。

一、是书颇似《列国春秋》，惟彼以战争为主义，故合纵连横，卒召强秦并吞之祸；此以共和为目的，故大公无我，克成兴汉联邦之盛。

一、是书颇似《三国演义》，惟彼时君主尊严，故挟天子以令诸侯，贼操得以行其志；此时民权发达，故前者仆而后者继，袁氏不能售其欺。

一、是书颇似《官场现形记》，惟彼书志在激浊，故以官场为众恶所归；此书志在扬清，故于宦场虽片长必录。

一、是书颇似《民报》，惟彼发现于民党组织之初，故直以愤激之伟论，将旧政府推翻；此发现于民党成立之后，故恒借诡谲之微词，为新政府谏。

四

[作者单位] 付建舟，男，浙江师范大学人文学院

早期漢訳ドーデ「最後の授業」7完  
最初の漢訳虞霊「戦後」のばあい

神田 一三

文文の説明

2010年、呉澧が「ドーデのほら吹き授業、童子の正体ばれ作品(都徳牛皮課, 童智馬脚文)」を公表して「最後の授業」批判を行なった。ドーデ作品をとりまく情況は、中国においても変化しているようだ。文文はどのように反応しているだろうか。

あらためて「戦後」に対する文文の説明を試みよう。翻訳する。

特に虞霊訳の「戦後」(現在は「最後の授業(最後一課)」と訳す)は、フランスの著名な小説家ドーデの代表作であり、プロシア・フランス戦争でフランスが敗戦した後、土地を割譲する苦境に直面し、分割占領された地方のあるフランスの普通の教師が小学生のために最後のフランス語授業を行ない、フランス人民の祖国に対する真摯な熱愛を述べている。この小説は、民国後、かつて胡適が彼の訳した『短篇小説』第一集に収録し巻頭の作品としたし、後に中学教科書に採用されたため影響はとても大きかった。郭延礼氏は、胡適がこの小説を翻訳した最初の作家だと考えたが、その実、早くも宣統三年(1911)一月七日から一月十五日には『時報』に出現していたのだった。

年を間違っているのは、すでに説明した。文文は、名指しして郭延礼をあげた。彼こそは近代翻訳研究の第一人者だ、という認識があるのだろう。だが、胡適漢訳を最初にするのが従来からの学界的常識であったのだ。

ドーデの「最後の授業」を要約して「フランス人民の祖国に対する真摯な熱愛を述べている」と書く。なにもかわってはいない。従来通りの紋切り型の賛辞をならべる。アルザスが出てこない。ドーデの該作品について深く考えたことがない証拠だ。

もうひとつの解説も見えておく。43という数字は、文文が解説のためにつけた作品番号だ。

43.「戦後」：宣統二年一月七日から一月十五まで。「虞霊訳」、文言短篇小説、第一人称、現在は「最後の授業(最後一課)」と訳し、フランスのドーデ著。ノブロシア・フランス戦争の後、フランスが敗戦し、フランスの各学校ではフランス語を教えることが停止されることになり、先生は愛国の感情をいだいて最後のフランス語授業を終える。訳筆は優美で洗練されており、とても感動的だ。275-276頁

『時報』の掲載年は、こちらのほうが正しい。

文文は、ドーデ作品の内容について同じことをくり返しているように見える。だが、フランス語の授業が停止されるのは、アルザス地方の学校だ。それを「フランスの各学校では」と説明して、文文が小説の内容について無知であることを露呈している。フランスとアルザスの関係を把握していない。中国において長年にわたって教科書に採用されており誰でも知っている、という結果がこれなのだろうか。

文文の解説は、どのみち先行する呉澧の文章とは無関係である。



「戦後」のばあい、文文がドーデ「最後の授業」であると指摘したのはすばらしい。ただし、それで終了したのは、いかにも惜しいと私は考える。

概説であって単独の論文ではない、という点は割り引いてもいい。しかし、検討すべき課題は、いくらかもあるだろう。

たとえば、文文の著書は翻訳小説研究とうたいながら基礎手続きがなされていない。漢訳はなにに基づいているのか。フランス語作品であれば、フランス語原文から直接に訳されたのか。あるいは、その英訳から転訳された可能性はないのか。省略加筆などはなされていないか。短篇小説なのだから、少しは深いところまですすんで記述できなかったものか。

#### 漢訳の底本

ドーデ「最後の授業」の漢訳については、考えるべきふたつの経路がある。フランス語原文から直接翻訳したか、あるいは、英訳からの転訳重訳か。

胡適、黄静英のふたりとも英訳にもとづいて漢訳していた。くり返すが、転訳重訳である。そう判断する決め手になるものが存在する。すなわち、英訳には、ドーデのフランス語原文には見ることのできない語句がいくつかある。

いちばん顕著でわかりやすいのは、フランス語教師アメル先生が最後の授業をするにあたって特別な時にしか見ない礼服を着用していた箇所だ。その決め手部分といってもいい。今まで漢訳の底本を探索してきて、自然にわかった。

日本語訳を引用する。

私は先生が、督学官の来る日が賞品授与の日でなければ着ない、立派な、緑色のフロックコートを着て、細かくひだの付い

た幅広のネクタイをつけ、刺しゅうをした黒い絹の縁なし帽をかぶっているのに気がついた\*55。

英訳はつぎの3種類を見る。

マッキンタイア英訳：Alphonse Daudet 著、Marian McIntyre 英訳 “THE LAST LESSON” *Monday Tales*. BOSTON: LITTLE, BROWN, AND COMPANY, 1900. 影印本

レイノルズ英訳：Alphonse Daudet 著、Francis J. Reynolds 英訳 “THE LAST LESSON” *INTERNATIONAL SHORT STORIES : VOLUME (FRENCH)*, NEW YORK: P. F. COLLIER & SON COMPANY, 1910 影印本、電字版

アイヴス英訳：Alphonse Daudet 著、George Burnham Ives 英訳 “The Last Class” *Alphonse Daudet's Short Stories*. New York and London: G. P. Putnam's Sons, 1909. 電字版

上の英訳3種は、本稿であつかう虞霊漢訳、あるいは検討してきた胡適漢訳、黄静英漢訳などよりも公表が早い。つまり、漢訳がもとづいた可能性をいずれも有しているという意味だ。

底本特定の決め手は、翻訳されたいくつかの単語にある。絞り込めば、主としては以下の3点だ。

(1) 緑色 verte のフロックコート、(2) 細かくひだの付いた胸飾り jabot、(3) 刺繍をした黒い絹の縁なし帽子 calotte である。

それぞれの描写が、英訳3種ではさすがに相違している部分が存在する。マッキンタイア英訳、レイノルズ英訳とアイヴス英訳の順だ。

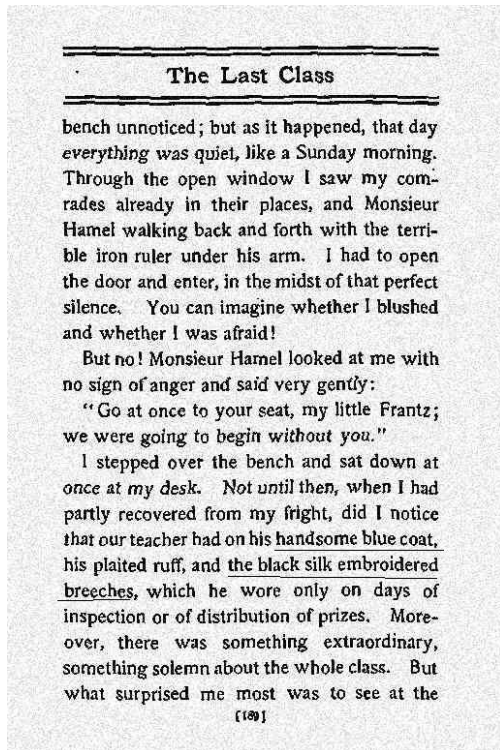
ドーデ原作	マッキンタイア	レイノルズ	アイヴス
(1) 緑色のコート	green	green	blue

(2) ひだ付き胸飾り	frilled shirt	frilled shirt	plaited ruff
(3) 縁なし帽子	calotte	cap	breeches

色彩は、微妙である。前にも説明した。言語文化によって受け取り方が異なる。フランス語原文が緑だ。それ以外の訳語を当てるのは誤訳である、と言い切ることはむづかしい。

原文の胸飾りが英訳では2品に変身する。飾りつきのワイシャツとひだエリ(アイヴス訳)に英訳された。もともとが別物だろう。たとえ見た目が同じでもだ。さらに、帽子がズボン(これもアイヴス訳)になった。はっきりと異なる。

虞霊漢訳の該当箇所を示す(写真はアイヴス訳)。



【虞霊】上着一有摺痕之青色衣。綺麗炫目。下着黒絹縫成之袴。

上には折り目のついた綺麗でまばゆい青色のコートを着て、下には黒い絹で縫製し

たズボンを着けている。

虞霊漢訳は、青色とズボンでアイヴス英訳と一致する。ひだエリは省略した。

ここをもって、虞霊漢訳は英訳、その中の特にアイヴス訳から転訳したとほぼ断定していいだろう。

虞霊については、不明。わずかに、虞霊靖之「(寓言小説)壹元銀幣之旅行談」(『小説月報』3年3期 1912.6)を見るくらいだ。もしも同一人物であるならば、姓は虞、名は霊、字が靖之だろう。

#### 漢訳を検討する

虞霊がもつづいたアイヴス英訳には、副題「ある少年アルザス人の物語 The Story of a Little Alsatian」がついている。虞霊は、それを省略した(後述)。

冒頭部分を比較対照してみよう。

【アイヴス】I WAS very late for school that morning, and I was terribly afraid of being scolded, especially as Monsieur Hamel had told us that he should examine us on participles, and I did not know the first thing about them.

その朝は学校へ行くのにとても遅くなったし、それに叱られるのがものすごく恐ろしかった。特にアメル先生が分詞について試験をすると私たちに言っていたのに、私はそれについてまったくおぼえていなかったからだ。

【虞霊】是日清晨。出戸行。朝暾已高照樹杪。遅矣。我入校之時間已逾。挨墨爾先生曾云。今日試験分詞(動詞体之形容詞)。

分詞乎。一句都不記憶。加以遲到。先生必不姑容。先生必痛責。奈何。心殊恐怖。

その日の朝、家を出ていくと、朝日はすでに木のこずえを高く照らしていた。遅くなった。私が登校する時間はとうに過ぎていく。アメル先生は、今日は分詞(動詞体の形容詞)を試験すると言っていた。分詞だ。まったくおぼえていない。それに遅刻するから先生は許さないし、先生はきっとひどく責めるにちがいない。どうしよう。とても恐ろしかった。

文章の前後を入れ替え、部分的に言葉をつけ加えている。そうではあっても、虞靈漢訳は、アイヴス英訳をほぼ逐語訳しているといっているだろう。特に「分詞」と漢訳しているところに注目する。胡適は「動静詞」とあいまいに訳した。黄静英がのちに「分詞」としたのに虞靈は先行している。しかも、注をつけて「動詞体の形容詞」とは親切だ。

英語の blackbirds (くろどり) を「群鳥」にした。だが、Rippert field (リペールの原っぱ) は「利卑刺平原」と音訳にして忠実だ。

アメル先生が持っているのは「鉄の定規 iron ruler」だ。虞靈は、そのまま「鉄の定規(鉄界尺)」と正しく漢訳している。

そこで思い至った。胡適は、レイノルズ英訳のその部分を「鉄戒尺(鉄の懲罰板)」と訳して誤っていた。定規と懲罰板では、あきらかに異なる。だが、いま気づいた。胡適の「戒尺」は「界尺」を誤植したものではないか。両者は同音だ。好意的な見方かもしれない。胡適本人も見過ごした。胡適漢訳を収録した小説集単行本は、21年間に21回も重版したという。2006年にも『短篇小説集』と改題されて刊行された。くわえて教科書に採録されたからどれくらいの中人生徒が読んだかわからないくらいだ。それを教えた教師も多数にのぼるだろう。論文を書いた研究者も数え切れないほどいる。それらの

全員が、懲罰板(戒尺)が定規(界尺)の誤植であることを見逃した。誤植であるという意識が生じなかったといってもいい。胡適漢訳の1912年公表からすでに100年以上が経過している。その間、研究者の誰ひとりとして胡適漢訳とフランス語原文、英語転訳を比較対照したことがない。おおまかに見た人はいる。だが、私がいっているのは、単語の段階に分け入って詳細に検討した研究者がいなかったということだ。「戒尺」がその証拠である。不思議なことがあるものだ。

どのみち、最初の虞靈漢訳が正しく、後の胡適漢訳が間違っているのはゆるがない。黄静英が「教鞭」と誤っているのにくらべても虞靈漢訳の方がすぐれている。

フランツ少年 little Frantz の漢訳は福頼支だ。前出のとおり、アメル先生 Monsieur Hamel は挨墨爾であって、オゼール老人 old Hauser は烏席爾とする。いずれも適切な漢訳だ。

オゼール老は綴り字教本を持参して授業参観に来ている。

【アイヴス】and Hauser had brought an old spelling-book with gnawed edges,

オゼールは古い縁のすり減った綴り字教本を持ってきていた

【虞靈】烏席爾先生携有極旧之拼字書。書辺半為鼠所蝕。然窺彼意中。甚愛護之。

オゼールさんはとても古い綴り字教本を持ってきていた。本の縁がすこしばかりネズミに食われていたが、とてもそれを大事に思っていることがわかる。

本の縁がすり減っているのとネズミがかじるのは違うと思われるかも知れない。英訳の gnaw とは、かじる、噛み切るという意味だ。当時の英漢字典には「噬、咬、嚙、齧」と訳語がついている通り。本をかじるならネズミだという連想になるだろう。虞靈は、すこし言葉を加えて、

オゼール老が大切にしているとおぎなつた(これも後述)。親切でわかりやすくなっている。

漢訳が英訳から離れるところもないわけではない。アメル先生が、本日が最後の授業だと皆に話すなかの一部分だ。

【アイヴス】The new teacher arrives tomorrow.

新しい先生が明日到着します。

【虞霊】余今日雖猶為此地之師。一至明日不復能居留於此矣。

私は本日はまだこの教師ですが、明日になりしだいここにはもう居留することができないのです。

ドイツ人の新しい先生が来ることは省略して書き換えた。こういう例が多いというわけではない。

フランツは、分詞の暗唱ができなかった。立ったまま、顔もあげられず、腰掛けの間で身体をゆさぶっていた。

この部分を別のレイノルズ英訳は、holding on to my desk (私の机をしっかりとつかんで)とする。アイヴス英訳はフランス語原文に近い。

【アイヴス】I stood there swaying against my bench,

私はそこに立ったまま、椅子にもたれて身体をゆさぶっていた。

【虞霊】不禁倚於座間。揺動其身如時計之攪[攪]。

思わず座席のあいだにもたれて身体を時計の振り子のようにゆさぶっていた。

「時計の振り子」は虞霊がつけ加えた。彼の漢訳は、少しの加筆をする傾向にあるようだ。

ドーデ「最後の授業」における決まり文句、有名な台詞も見ておく。もとはミストラルの文章だ。

【アイヴス】when a people falls into servitude, "so long as it clings to its language, it is as if it held the key to its prison."

ある民族が奴隷の境遇に陥っても「その言語を固守しているかぎり、牢獄の鍵を握っているようなものだ」

【虞霊】人民儘可服從他國。若本來之國語。齷住不稍放縱。猶身入囹圄。而牢中之匙。為己所持。人亦無可如何。以此古語。譬我輩今日之狀態。

人が他国にひたすら服従することがあっても、もし本来の国語を歯を食いしばって放さなければ、身が牢獄にあらうとも、牢獄の鍵を自分で持っているようなものだ。他人にはどうしようもない。この古くからのことばは、私たちの今日の状態をたどっているのです。

アイヴス英訳には、ミストラルのフランス語が注としてつけられている。虞霊は漢訳していない。そのかわり「古語」に置き換え、言葉をおぎなって説明を加えた。いくらかの操作を行なったが、基本的にアイヴス英訳に忠実な漢訳である。

胡適は「牢獄の鍵」を漢訳しなかった。あるいは、黄静英がその部分を見捨てたのに比較すれば、虞霊はよほどうまく翻訳している。

文法の説明が終わると習字の練習だ。先生が用意したお手本は「フランス、アルザス」をくり返して“France, Alsace, France, Alsace.”だ。虞霊は、「仏蘭西埃爾薩斯………」と記号を使ってうまく処理した。本来が省略好みの胡適だが、この部分だけはしつこくくり返して英訳通りにしたよりもずっとましだろう。

12時の鐘がなってフランス語最後の授業は終了した。アメル先生は、言葉を詰まらせる。

【アイヴス】But something suffocated him.

He could not finish the sentence.

しかし、何か彼の息を詰まらせた。彼は言葉を終えることができなかった。

【虞霊】無数之言語。鬱結於内。為喉所礙。不能完其後。

無数の言葉が内にふさがり、のどにささり、そのあとを終えることができなかった。

ここでも虞霊のすぐれた翻訳能力を見ることができるだろう。

ドーデ「最後の授業」が本来持っている作品としての決定的欠陥は、ここでは問題にしない。漢訳という側面だけから検討してきた。

虞霊の漢訳は、今より1世紀の以前から、胡適漢訳、黄静英漢訳に先駆けて出現している。しかも、その漢訳の水準は、胡適らよりもはるかに高く良質である。私はそのことに感心する。

### まとめ

清末の翻訳は、削除、書き換え、いわゆる「豪傑訳」が多いというのが定説だ。しかし、虞霊の翻訳は、その時期にあってそれらとは基本的に異なっている。

胡適のように勝手に原文を削除してはいない。黄静英のように随意に書き換えてもいない。虞霊の文言漢訳は、アイヴス英訳にもとづく全文翻訳であり、ほとんど逐語訳、直訳であるといっている。中国最初の「最後の授業」漢訳であると同時に、その翻訳の質はきわめて高いと何度でも主張したい。

### 馬場孤蝶日本語訳の存在 結論

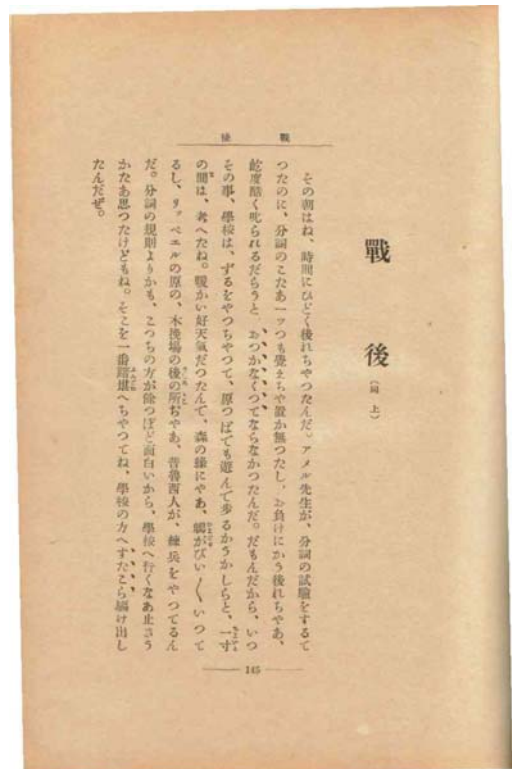
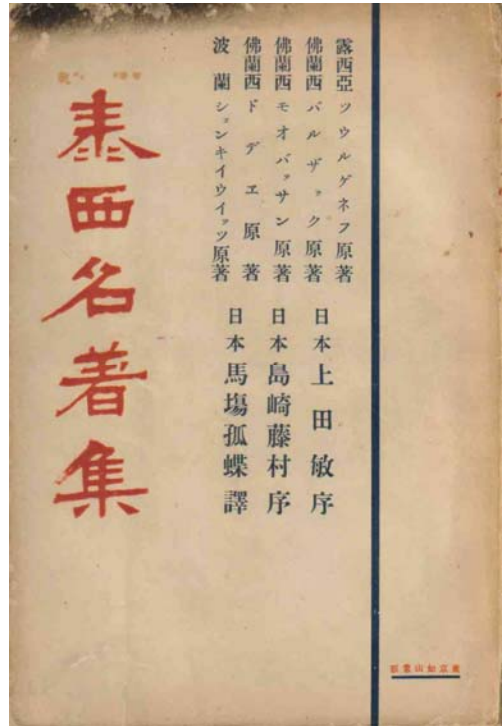
それにしても、疑問は残る。

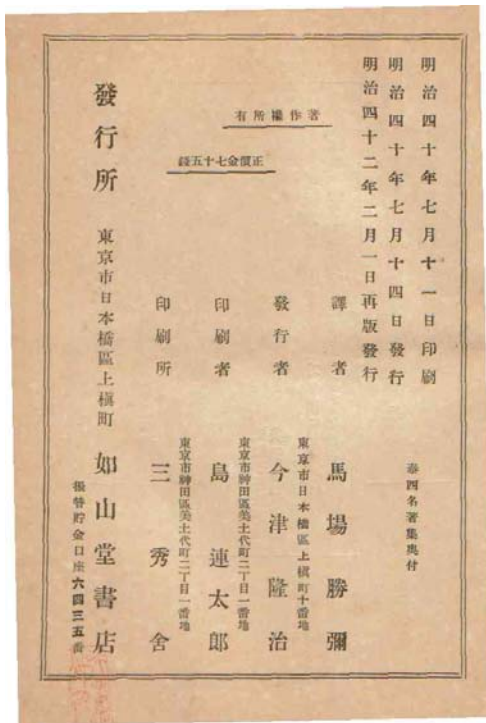
英訳の“The Last Class”すなわち「最後の授業」が漢訳ではなぜ「戦後」になるのか。本文についていえば、基本では英訳に忠実な漢訳である。にもかかわらず、題名だけ意識したのだろうか。問題のひとつだ。

ところが、思わぬ所に解答があった。「戦後」

という日本語訳が存在しているのだ。

アルフォンス・ドデ工原著、馬場孤蝶(勝彌)訳「戦後」(『泰西名著集』如山堂書店1907.7.14 / 1909.2.1再版。145-156頁)である。





馬場孤蝶の日本語訳を見れば1907年初版だ。1910年発表の虞靈漢訳に先行する。孤蝶日訳本の再版であっても、やはり虞靈漢訳よりも早い。

虞靈漢訳とアイヴス英訳を比較対照したように、それぞれの箇所について、こんどは孤蝶日訳と虞靈漢訳を検証してみた。

すると、アイヴス英訳と一致しなかったいくつか、孤蝶日訳とは重なるのである。

たとえば、アイヴス英訳にはついてた副題「ある少年アルザス人の物語 The Story of a Little Alsatian」だ。虞靈漢訳にはそれがなかった。だから、虞靈は省略したと以前は考えた。だが、孤蝶日訳にも最初から省略してある。虞靈はそれを踏襲した。

単語の「participles 分詞」だ。虞靈は、「分詞(動詞体之形容詞)」と細かく説明をつけている。孤蝶日訳では、そのまま「分詞」とする。虞靈の説明は彼がほどこした工夫であるが、「分詞」は共通している。

アメル先生が持っている「iron ruler」は、孤蝶日訳では「鉄の定規」だ。虞靈漢訳が「鉄界

尺」とするのは日訳によったからだろう。

虞靈が使用したのはアイヴス英訳だと判定した根拠をもういちど確認する。アイヴス英訳にしか見られないアメル先生の服装についての描写だ。虞靈の漢訳をもういちど示す。

【虞靈】上着一有摺痕之青色衣。綺麗炫目。下着黒絹縫成之袴。

上には折り目のついた綺麗でまばゆい青色のコートを着て、下には黒い絹で縫製したズボンを着けている。

ドーデの原文とはコートの色が違うし、帽子がズボンになっている。そうしているのは、アイヴス英訳しかない。同じ箇所を孤蝶日訳では、どのように翻訳しているか。

【孤蝶】先生は、綺麗な青い上着を着て、<sup>ひだ</sup>褶付きの襟衣を掛けて、視学式の時か、賞品授与式の時で無きや着無え黒い絹の縫取りのある腰衣<sup>つぼん</sup>を穿いて居たんだせ。148頁

虞靈は、上記の引用部分につづけて「非視学式及賞品授与式時不服」をおいた。孤蝶日訳の「褶付きの襟衣」を省略しつつ言葉の順序を入れ替えただけ。

細かいところをいえば、オゼールの持参した古い綴り字教本があった。アイヴス英訳には見えない「書辺半為鼠所蝕(本の縁がすこしばかりネズミに食われていた)」について、孤蝶日訳を見てみよう。

【孤蝶】オオゼルさんは、<sup>かち</sup>縁を鼠に嚙ぢられた古い綴り字書を以つて来て居て、……148頁

虞靈は孤蝶日訳を忠実に漢訳したとわかる。

部分的には、英訳、日訳と違えた箇所もある。すでに例としてあげたアメル先生がフランツた

ちにむけて説明したことばを再度あげる。比較対照するために孤蝶日訳も加えよう。

【アイヴス】The new teacher arrives tomorrow.

新しい先生が明日到着します。

【虞霊】余今日雖猶為此地之師。一至明日不復能居留於此矣。

私は本日はまだこの教師ですが、明日になりしだいここにはもう居留することができないのです。

【孤蝶】今度の先生は明日此所へ著かれる筈であります。149頁

虞霊がほどこしたわずかな書き換えである。全体からみて多くはない。

アメル先生の特別な礼服からして、孤蝶日訳はアイヴス英訳を底本に使ったと確定することができる。

ところが、本稿で利用したアイヴス英訳の刊年が問題になる。

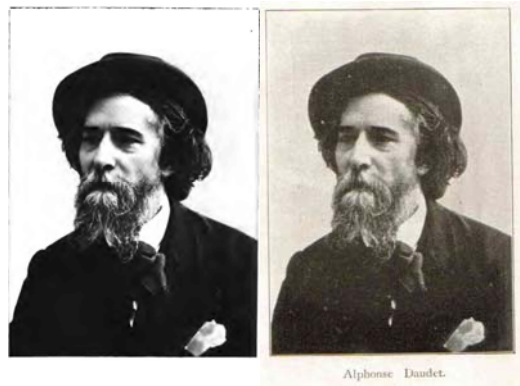
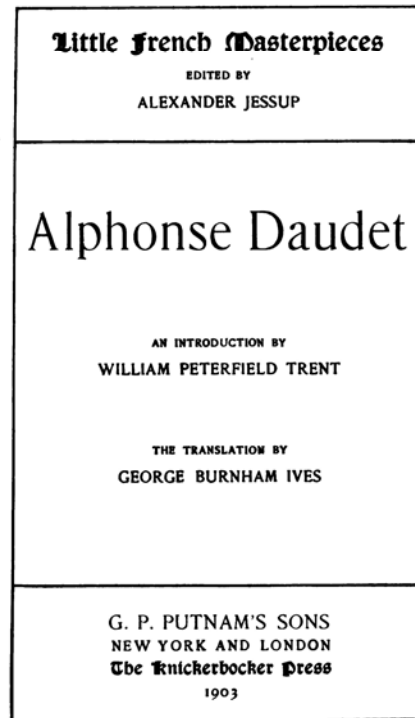
本稿では G. P. Putnam's Sons が刊行する1909年版を参照してきた。だが、孤蝶日訳の発行は、上に示したように1907年の出版物である。発行年があわない。

調べれば簡単に判明した。同社が1903年刊行した *Alphonse Daudet Little French Masterpieces* があつた。書名が異なるだけで本文、ページ数ともにまったく一致する。馬場孤蝶が底本にしたのはこの1903年版であることに間違いはない。孤蝶日訳(1907年)が掲げたドーデの肖像は、1903年アイヴス英訳本にある肖像と同等。参考までにふたつならべておく。

ドーデ「最後の授業」最初の漢訳は、図式にすれば以下の流れで出現した。

ドーデのフランス語原作 アイヴス英訳 馬場孤蝶日訳 虞霊漢訳。

中国において最初の、しかもどれよりも原作に忠実な翻訳は、孤蝶の日本語翻訳にもとづい



G. P. Putnam's Sons のアイヴス英訳1903年版(ネットより引用)  
馬場孤蝶日訳1907年版

ていた。興味深い。

ドーデ原作が作品として成立しないことはすでに述べている。今は虞霊漢訳の質について検討してきた。孤蝶日訳が底本であったとしても、私の虞霊訳に対する高い評価はかわらない。漢

訳は、ほとんど逐語訳、直訳であり、高水準で良質である。そうなった原因のひとつは、虞霊がよった日本語訳本にある。馬場孤蝶のすぐれた英語力\*56が生み出した「戦後」という翻訳だったからだ。(虞霊の項終了。本稿完) 罎

【注】

- 55) ドーデー作、桜田佐訳「最後の授業」『月曜物語』岩波書店1936.2.10 / 1989.1.5五十二刷 岩波文庫。12頁
- 56) 秋山勇造「馬場孤蝶」『埋もれた翻訳 近代文学の開拓者たち』新読書社1998.10.20

- 黄 錦珠 『女性書写的多元呈現：清末民初女作家小説研究』台湾・里仁書局2014.5.10
- 陶 海洋 『《東方雜誌》研究(1904-1948)』合肥興行大学出版社2014.8 / 2014.10第1次印刷
- 劉 穎慧 『晚清小説広告研究』北京・人民出版社2014.9
- 謝 仁敏 『晚清小説低調研究 以宣統朝小説界為中心』北京・中国社会科学出版社2014.10
- 顔 健富 『從「身体」到「世界」：晚清小説的新概念地圖』台湾・国立台湾大学出版中心2014.12
- 劉德枢、任光宇主編 『劉鶚辞世百年祭』北京・中国文化出版社2015.1
- 潘 薇薇 『從《申報》廣告看中国近代小説運動』上海・東方出版中心2015.1
- 薛 建蓉 『重写的「詭」跡 日治時期台灣報章雜誌的漢文歷史小説』台湾・秀威資訊科技股份有限公司2015.2

『明清小説研究』2014年第4期(總第114期)

2014発行月日不記

- 啓蒙的悖論 晚清小説文体意識建構与隱含讀者意識 .....黄 鍵
- 晚清小説標“新”之風成因探析 .....王 鑫
- 清末民初小説的幫会印象 .....許 軍
- 從《孽海花》中傳彩雲形象看晚清知識分子的文化反思 .....楊 飛
- 『明清小説研究』2015年第1期(總第115期)
- 2015.1.15
- 重審《蕩寇志》的政教意識 .....余 夏雲

原作の探索

「夢遊二十一世紀」を例にして

沢本香子

はじめに

漢訳「夢遊二十一世紀」がもとづいた原作はなにか。本稿の目的は、これを示すことにある。漢訳がよったのは、英語訳本か、あるいは日本語訳本なのか。

翻訳小説を研究対象にすると、やらなければならないやっかいな問題が出現する。原作の特定である。清末時期の作品には、原作を明示することが少ない。翻訳であることすら書かないこともある。目録を作成する時、原作を探索せず、そこに書かれている題名などの事項を写すだけなら、できないこともない。阿英目録を含めて中国で編集刊行された多くの目録は、そのやり方を採用している。例外はあるが、まさに例外にすぎない。そういう状況を見ているから日本の『清末民初小説目録』(以下、樽目録と略称。現在第6版がネット上で公開されている)が、原作をできるだけ明記しようとしているのが珍しい。翻訳小説研究につながる手がかりを提供したいという意図がうかがえる。原作を探し出せるかどうか、研究の大きな分かれ目になるのはいうまでもない。

手順からいえば、まず実物を入手することが



ら始まる。

ことばでいえば、簡単だ。実物がなければどうするのか、と聞かれてしまいそうだ。研究環境が整いつつある現在から見れば、ついこの前の研究状況すら想像できないだろう。電脳のない時代にどう研究していたのですか、と聞かれるかもしれない。現在ではどんなことでも、まずネットで検索する。そこにあるものを複写するのが研究だと考えている人もいないのではない。まさか、とは思う。だが、学生のレポートがそうして作り出されている、と1990年代から話題になりはじめていた。レポートと研究は別と言えべつなのだが。

実物を手に入れたとする。それを読んで原作がわかれば、そこから研究がはじまる。

原作が不明だと関連文献に当たる。文章を書くとするれば、できるかぎり文献を探すのは当たり前だ。新しい発見だと喜んだところが、すでに先行文献が指摘していた。よくあることに違いない。

漢訳「夢遊二十一世紀」

漢訳「夢遊二十一世紀」を取り上げる。原作と漢訳のあいだに英語訳あるいは日本語訳が存在するのかが問題になるからだ。つまり、翻訳経路を特定する必要がある。ここから始まる。

阿英目録には、つぎのように記載される。

夢遊二十一世紀 楊徳森訳 光緒二十九年(一九〇三)商務印書館刊。153頁

阿英目録に見える普通の記述だ。原作については一切言及しない編集方針だとわかる。

阿英は採録していないが、該作品は商務印書

館が刊行していた雑誌にも掲載された。つぎのものだ。

夢遊二十一世紀 (紀西歴紀元後二千零七十一年事)

荷蘭博学士某君原著

『繡像小説』1-4期 癸卯五月初一-閏五月十五日(1903.5.27-7.9)

原作者がオランダの某君というのでは雲をつかむようなはなしだ。こちらには、漢訳者の名前がない。阿英目録が採用した編集方針のひとつは、角書を明記しないことだ。上に見た阿英目録には角書の「紀西歴紀元後二千零七十一年事」がない。

『繡像小説』の版元は商務印書館だ。上の2点は題名からしても同じ作品である。

その後、いくつかの版本、文献を見ることにより著者と訳者が判明した。「(荷蘭)達愛斯克洛提斯著 楊徳森訳 楊珈統校閲」だという。

オランダまではわかって、達愛斯克洛提スがディオスコリデスだと理解する人は、よほどの達人だろう。

私は中村忠行論文を読んで知った。該翻訳作品の原作について樽目録は以下のように説明している。

DR. PSEUD DIOSCORIDES “ ANNO 2065., EEN BLIK IN DE TOEKOMST ” 1865. 本名 PIETER HARTING

華訳は DR. ALEX. V. W. BIKKERS の英訳再版本 (“ ANNO DOMINI 2071 ” 1871 ) によつたらしい(中村忠行)

“ ANNO 2065., EEN BLIK IN DE TOEKOMST ”

の“ANNO 2065”は、「西暦2065年」だし“EEN BLIK IN DE TOEKOMST”の意味は「将来を見通す」というらしい。説明するまでもないかとは思いますが、英訳“ANNO DOMINI”といえば、A. D. (ラテン語の略称)の紀元後、あるいは西暦、キリスト紀元を意味する。B. C. (before Christ)すなわち紀元前に対する呼称だと知られる。

中村の論文を参照したから名前を明記している。「によったらしい」というのは引用である。漢訳角書に見える「二千零七十一年」からして、中村の指摘に合致していると考えられる。

中村は、日本文学研究から出発して中国の翻訳文学に進んだらしい。だから、日本における翻訳小説に詳しかった。しかも、研究状況が整っていない時代から、一貫して実物にもとづいて研究していた。彼の書いた論文は、いまでも信頼するに足ると私は考えている。

中村の論文が高い信頼性を備えているのには理由がある。『繡像小説』を例にして説明しておきたい。

#### 研究界における『繡像小説』

中村は、かなりはやい時期から漢訳「夢遊二十一世紀」の原作を指摘している。英訳にもとづいたものだ、となぜ把握できたのか。それは、彼が漢訳を掲載した『繡像小説』雑誌そのものを見ていたからだと思われる。

今でこそ『繡像小説』全72冊は簡単に閲覧することができる。「晚清小説期刊」シリーズとして1980年に上海書店が影印し、香港・商務印書館が発売した。『新小説』『繡像小説』『月月小説』『小説林』『新新小説』を原本から影印する。

ただし、版本の吟味が不十分だ。『繡像小説』は初版ではなく再版を選択して影印した。

すると表紙の絵柄が異なった。初版の牡丹模様が後の孔雀模様に統一されてしまった。この事実を知らない研究者は多い。初版を見る機会がなかったのだろう。

該誌が売り物にした「挿し絵(繡像)」については、作品によっては初版に存在するが再版では削除されているものもある。この事実気づかなかったのが陳平原選編導読『《文明小史》与“繡像小説”』(貴陽・貴州出版集団、貴州教育出版社2014.7.1 20世紀中国人的精神生活叢書)だ。陳平原は説明して、『繡像小説』第21号(期)に「文明小史」第21回と第22回が掲載され、後者には挿し絵がない、という。誤り。第22回の挿し絵が存在しないというのは、たぶん再版本によっているからだと思われる。初版本を見るべきだった。2015年1月16日付で清末小説研究会ホームページが、実物の挿し絵を掲げて指摘している。

影印本は、おまけに広告ページを削除した。広告が貴重な研究資料であるという認識が、当時の上海書店の担当編集者にはなかったらしい。影印本そのものは、ないよりはずっとましだ。いうまでもない。しかし、資料としては不完全だ。かえすがえすも惜しいことだった。

影印本の発行によってひろく普及した。おおかたの研究者が読んでいるのは、この再版にもとづいた影印本のはずだ。

1980年以前の状況は、どうだったか。

中国では、阿英などごく少数の研究者が原物で所蔵していただろう。影印本などない時代だから実物に違いない。ついでにいえば、あの有名な『新小説』すら満足に揃っていなかった。そういう状況で雑誌を主体とした研究が進むわけがない。誰も研究論文を書かなかった。

日本では、澤田瑞穂が初版本揃いを所蔵して

いた。樽本がそれにもとづき「繡像小説総目録」を作成したのが1973年のことだった。聞くとこころによれば、目録の別刷りを中村忠行に送ると丁寧な礼状がきたという。これでようやく『繡像小説』を資料として使用できるようになったと書いてあった。雑誌原本は竹内好が所蔵していたそうだ。中村はそれを作品ごとにバラして写真に撮った。しかし、そうしたため期数と刊年が不明になり、引用することができなかった。そういうことらしい。竹内好からもハガキがきたらしい。竹内好が所蔵していた『繡像小説』は、1冊が欠本だったというのだ。完揃いではなかった。

日本で『繡像小説』を所蔵する人はそれだけだ。当時、私は大学図書館などをいろいろ調べたが、やはりどこにもなかった。

中村は、写真を手元において論文を書いていた。ディオスコリデスの原著をベッカーズが英訳した。それをもとに漢訳が成立したという流れになる。すっきりした説明だと私は考える。

#### 記述のブレ

ところが、あとで中村の記述がブレてくる。漢訳に使用した底本についてのみ以下に列挙する。冒頭の年は発表時期だ(詳しくは樽目録第6版を見てほしい)。

1962年：華訳本が據つたのは、上條信次訳『開化進歩後世夢物語』(明治7年)の方である

1966年：「夢遊<sup>ママ</sup>廿一世紀」、某訳、上條新次<sup>ママ</sup>訳「新未来<sup>ママ</sup>記」(注：「新未来<sup>ママ</sup>記」は近藤真琴<sup>ママ</sup>訳、1878)

1978年：抛ったベッカーズ(DR. ALEX. V. W. BÉKKERS)

中村は最初、漢訳は英訳本によっていた、と書いていた。途中で上條信次の日本語訳が出てきて、さらには近藤真琴の「新未来<sup>ママ</sup>記」が混入

する。まぎらわしい。最後は、もとのベッカーズ英訳にもどった。

漢訳が使用した版本は、ベッカーズの英訳が上條の日本語訳か。ここに問題が存在する。

#### 日本での研究

日本での関連研究を2点のみ紹介する。

ひとつは、木村毅、齋藤昌三『西洋文学翻訳年表』(岩波書店1933.7.5。岩波講座世界文学)だ。蛇足ながら書いておく。この小冊子は、古書店から購入した。本文には極細のペンで書き入れ訂正がほどこされ、紙片の貼り込みがある。齋藤自身の記入かもしれない。

「明治七年」の項目に以下のようにある。原本に關係する部分を引用する。

(開化進歩)後世夢物語 二 ジオスコリデス 上條信次 山城屋

半紙木版和装で、後出十一年出版の近藤真琴の『新未来<sup>ママ</sup>記』と同一原書を訳出したものである。(中略)上條本の原書は二千七十一年云々とあり、近藤本の二千六十五年とあるより、六年後の英訳本であらうとは、柳田氏の説である。31頁

ここには日訳名と原作者の「ジオスコリデス」はある。だが、原題、あるいは英訳題名が書かれていない。

つぎに柳田泉『明治初期翻訳文学の研究』明治文学研究第5巻(春秋社1961.9.15 / 1966.3.10二刷)を見る。こちらでも抜粋する。引用が長くなるから区切りながら説明していく。

上<sup>ママ</sup>条<sup>ママ</sup>信次の訳『開化進歩後世夢物語』二冊(半紙木版和装)は明治十一年出版

の近藤真琴の『新未来記』と同一原書を訳出したものである。『新未来記』の例言には「原書ハ『紀元二千六十五年』ト題シ又『未来ノ瞥見』ト云フ、和蘭の博士『ジラスコリデス』ノ著ト記ス、三百年来學術次第進ミ人生ノ状昔日ニ異ナルヲ以テ推テ二百年ノ後ヲ想像シ夢ニ託シテ之ヲ記スル者ナリ」云々、一八六五年の著述であることは、これでわかる。

柳田の説明で気になるのは、上條「後世夢物語」を説明するのに近藤「新未来記」を使用していることだ。記述の都合でそうなっているのか、あるいは該文を執筆時に実物が手元になかったのか、よくわからない。私はここで柳田が該書未見だといっているわけではない。伝聞のような書き方が気になっているというだけだ。

柳田が実物を見ていることは、つづく部分を読めば理解できる。

ただし上條<sup>ママ</sup>信次氏は、オランダ語から訳したものではなく、英訳からの重訳である。それは書中の人物などの発音でもわかる。近藤氏がロジエル・バアコとオランダ読みか何かに発音しているのに、上條<sup>ママ</sup>氏はローゼル・ベーコンと英語流に発音している如きである。

翻訳書の実物を見ているからこそ外国人のカタカナ表記を引用することができる。ただし、「ローゼル・ベーコン」ではなく「ロゼル・ベーコン」が日訳原文だ。

ここには拠った原本を特定する方法が述べられている。昔、ここを読んだときは、私はなんにも感じなかったらしくおぼえてもいない。あら

ためて見なおせば、研究法が明らかにされているとわかる。原本がオランダ語か英語かの判断材料は、訳語の細部に宿っているということだ。柳田論文を中略して引用の最後部分だ。

かつ上條<sup>ママ</sup>氏の用いた原書には、二千七十一年云々とあったというから、近藤氏の二千六十五年よりも六年後の版（おそらく英訳）らしく思われる。9頁

ふたつの日本語訳に使われた原本は、ディオスコリデスの作品だ。それは、いい。異なるのは、近藤訳本は、オランダ語本を、上條訳本は英訳本を採用したことだった。

#### 日中での研究

原作および訳本に言及した文献は、中村論文を除いて、それほど多くはない。私が知っているのは、つぎの2点だ。樽目録第6版の記号とともに引用する。参考のため冒頭に発行年を示す。

1980年[中日880.013]「夢遊<sup>ママ</sup>廿一世紀」ANNO 2065、(荷) DR. PSEUD DIOSCORIDES、上條信次訳、1903(光緒29)、日訳書名『開化進化後世夢物語』1874

2012年[漢訳2743]「(科学小説)夢遊<sup>ママ</sup>廿一世紀」で収録、DIOSCORIDES, PSEUD 著、(日)上條信次訳、1903(光緒二十九)4初版/1914七版、説部叢書、原書 ANNO 2065. 科幻小説、漢訳本據日訳本『開化進化後世夢物語』1874重訳

両方とも上條の日本語訳本が漢訳の原本だと書いている。後者は前者を引用しているから、

ほとんど同じ文章になるのは不思議ではない。前者は実藤恵秀の監修になる。翻訳研究でも有名な実藤の説明だから、後者の張暁が信用したのも無理はないか。それにしても、実藤と中村は親しい間柄だったから、中村が書いた論文別刷りは送られていただろう。実藤は、それを無視したのか。その事情はよくわからない。一方の張暁(『近代漢訳西学書目提要 明末至1919』北京大学出版社2012.9)は、樽目録第3版(2002年)を知らないらしい。

1980年以降の日本と中国の目録では、漢訳が基づいたのは日本語の上條訳本になってしまった。英語訳はどこにも見えない。

2014年、日中近代小説を主題とする専門書2冊が、上海で同時に刊行された。

#### 中国における最近の研究

ひとつは、寇振鋒『訳介与接受 中日近代小説生成時期的影響研究』(上海訳文出版社2014.8。全文日本語)だ。「夢遊二十一世紀」に關係する箇所だけを抜き出して示す。

#### 夢遊二十一世紀

(荷蘭)達愛斯克洛提斯著 楊徳森訳 楊珈統校閲

『繡像小説』1~4期 1903、5~7

(日)上条[條]信次『開化進歩後世夢物語』  
奎章閣1874、10 379頁

まず指摘しておきたい。寇振鋒は『繡像小説』に掲載されたと書きながら、その記述が正確ではない。

既述で示した角書がない。荷蘭博士某君が初出だが、のちの著者名にかえている。同じく、雑誌にはありもしない楊徳森訳と楊珈統校閲を

掲げる。

寇振鋒の記述は、つぎのような意味になる。すなわち、ディオスコリデスのオランダ語から上條日訳が直接作られ、それが漢訳された。図式にすれば、オランダ語 日本語 漢語となる。寇振鋒の編集方針も、原作、原作者の外国語表記は採用しないということらしい。

すぐに奇妙なことだとわかる。なぜなら、木村・齋藤、柳田たちが説明していた上條がよった英訳本が欠落しているからだ。

もうひとつは、寇振鋒が参照したという樽目録第3版には、上條信次は出てこない。どこから上条を引っぱってきたのか。「奎章閣1874、10」と出版社、刊年も明示してこれまでとは異なっている。すると、これも参照したという武田雅哉・林久之『中国科学幻想文学館』(大修館2001.12)ということだろうか。

武田本から引用する(ルビ省略)。

ディオスコリデスの『紀元二〇七一年 - 未来の瞥見』は、日本では、上条信次が『開化進歩後世夢物語』と題して紹介したが、中国では『夢遊二十一世紀』(楊徳森訳・楊珈統校閲。一九〇三、『繡像小説』一~四)と題して翻訳された。68-69頁

これが、寇振鋒のいう上條説の根拠らしい。だが、武田本には、「奎章閣1874、10」がない。ここは寇振鋒の調査結果だろう。あとでもう一度検討する。

以上は、次の李艶麗のばあいとほぼ同じになる。

李艶麗『晚清日語小説訳介研究(1898-1911)』(上海社会科学院出版社2014.8 国家对外文化交流研究叢書)である。こちらも該当部分のみを

引用する。

97\* 《夢遊二十一世紀》，楊徳森訳，楊珈統校閲，《繡像小説》第1-4期(1903.5.29-7.9) (荷蘭) Dr. Pseud Dioscorides “Anno 2065., Een Blik in de Toekomst” 1865 (日) 上条<sup>ママ</sup>[條]信次訳『開化進歩後世夢物語』奎章閣1874 [10、発兌行・山城屋政吉] 180頁

はじめに説明しておく、ママおよび[ ]は筆者の注だ。

「97\*」などと通し番号に「\*」をつけるのは、李艶麗による発見(訂正あるいは補充)を示しているようだ(169頁欄外注1)。

そうすると李独自の説明というのが原題をより詳しく表示した箇所、あるいは、上条日訳を提出したところになる。李艶麗本は寇振鋒本と同じ刊年だから、ふたりとも独自に「奎章閣1874」を補充したのだろう。

李艶麗の記述は、間違いではないが、正確でもない。

たとえば、漢訳題名についている角書、つまり「紀西歴紀元後二千零七十一年事」が抜けている。

『繡像小説』掲載時にある「荷蘭博士某君」は収録せず、かわりに「楊徳森訳、楊珈統校閲」を掲げた。別の単行本から補充したらしい。寇振鋒も同じことをした。正確な記述というわけにはいかない。

文中にある は欄外に注として説明がある。引用して翻訳も示す。

本項目は、武田雅哉『中国科学幻想文学館(上)』第68頁による。ただし、樽本目録では

次のように記す。中村忠行の研究によれば、漢訳本は英訳本からの転訳であるらしい。

本条按武田雅哉『中国科学幻想文学館(上)』、第68頁。但在樽本目録中記：據中村忠行研究、似乎中訳本是通過英訳本進行轉訳的。180頁

この説明はなにを意味するか。

李艶麗は、寇振鋒と同じく武田本と樽目録第3版を比較検討した。検討したうえで、結果として武田本の記述を採択したことになる。樽目録第3版は正しくないと判断したわけだ。これを図式化すれば、オランダ語原本 上条日訳 漢訳となる。

奇妙な偶然の一致だと見えるのだが、日本語のできる寇振鋒と李艶麗のふたりともが、樽目録第3版に明記した「BIKKERS の英訳」を無視した\*1。

すでに引用した武田の説明は、別にまちがってはいない。ディオスコリデス原作が、日本と中国で翻訳された、と事実を書いているにすぎない。日本語訳と漢訳がどういう関係であるかまでは述べなかった。そこを寇振鋒と李艶麗のふたりは、気づかなかつたらしい。あるいは、日訳と漢訳の関係を説明していると誤読したのではなからうか。

漢訳問題は、直接よったのは日本語訳なのか英語訳なのか、の二者択一に収斂する。

翻訳小説研究は、先行文献を無視してはならないが、単に字面を比較しただけで終わっては、なさない。

寇振鋒と李艶麗は、ふたりともに真相に近づいていた。とくに李艶麗のほうは、注で補足したくらい樽目録第3版の英訳まで視野に入れていた。優秀な研究者のひとりである。問題解決まであと一歩というところまで迫っていたのだ。

惜しいというよりほかに言いようがない。

手がかりはすでに示されている。英訳、日訳、漢訳の存在が明らかになっている。あとは実物で検討すればいいだけだろう。

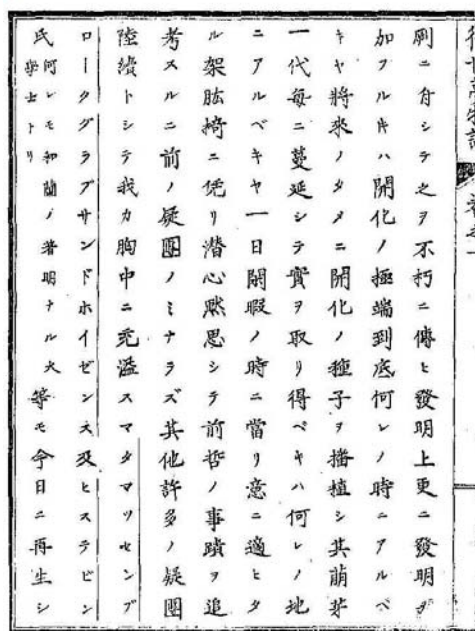
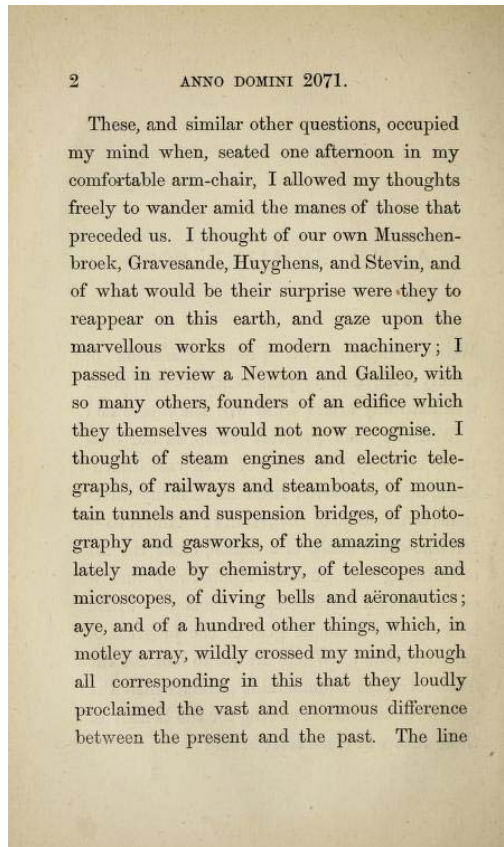
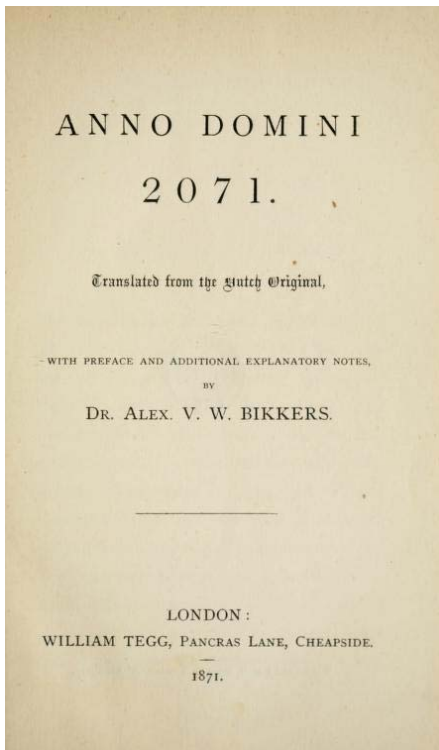
これほど電腦化が進み、ネットを利用できる環境が整っている現代である。調べようと思えば、すぐできる。簡単なことだと思えるのだが。

### 原作の探索

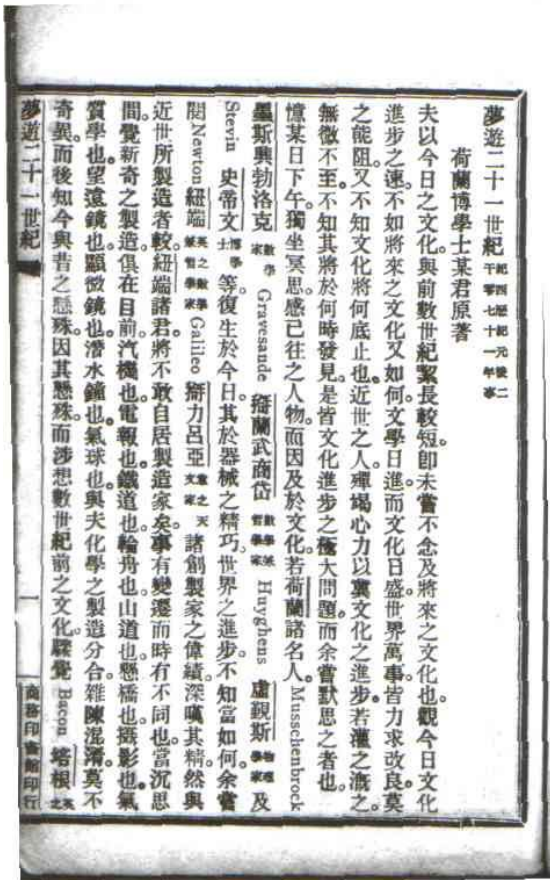
翻訳小説研究の基本は、あらためて言うまでもなく、実物(複写を含む)を自分の目で直接比較対照することだ。先行文献を信用しすぎては危険である。間違いを再生産する可能性が出てくるからだ。

漢訳「夢遊二十一世紀」に関する寇振鋒と李艶麗のふたりの説明を見ると、その再生産ではないかと疑う。

問題を絞り込む。ベッカーズの英訳、上條の日訳、漢訳の3点を比較すればよい。



上條日訳(国立国会図書館近代デジタルライブラリー)



『繡像小説』掲載

英訳はネットに掲げられている。上條日訳は国立国会図書館近代デジタルライブラリーにある。電腦がネットにつながっていれば、誰でもどこからでも閲覧可能だ。『繡像小説』の漢訳は該当部分を容易に見ることができる。

英語	日訳	漢訳
Musschenbroek	マッセンブローク	Musschenbrock 墨斯興勃洛克 (数学家)
Gravesande	グラブサンド	Gravesande 穉蘭武商岱 (数学兼哲学家)
Huyghens	ホイゼンス	Huyghens 虚観ス (物理学家)
Stevin	ステビン氏 (何レモ和蘭ノ著明ナル大学士ナリ)	Stevin 史帝文 (博士)
Newton	ニウトン	Newton 紐端 (英之数学兼哲学家)
Galileo	ガルリヲ	Galileo 穉力呂亜 (意之天文家)

作品冒頭に出てくる人名の一部を英訳、日訳、漢訳の順で一覧表をつくった。ご覧いただきたい。

一見して理解できる。上條日訳は、英語の人名をカタカナに置き換えただけ。割り注でオランダの著名人だと説明したのが彼なりの工夫だろう。それにくらべれば、漢訳は英文を示し、割り注でさらに細かく説明している。

漢訳の角書が「紀西歴紀元後二千零七十一年事」であることにあらためて注目すべきだ。英訳の“ANNO DOMINI 2071”と同じ数字を共有しているではないか。

結論

漢訳「夢遊二十一世紀」がよった底本は、ベッカーズの英訳本“ANNO DOMINI 2071” ([日訳：紀元2071年]1871) である。上條信次訳『開化進歩』後世夢物語』(1874) とは、関係がない。 ㊦

【注】

- 1) 李艶麗について「無視した」は言い過ぎか。114頁で「楊徳森依據 Dr. Alex. V. W. Bickers 英訳本転訳」と書いているからだ。そうすると上條訳を示したのとは矛盾する。123頁でも上條訳からの転訳だと断言する。結果として主張が揺れている。



## 「綺羅沙夫人」の原作

沢本郁馬

陳景韓訳「綺羅沙夫人」は、漢訳単行本『虚無党』に収録された中の1篇である。

原作を見つけたので報告する。といっても『虚無党』そのものを実物で確認していない。あくまでも資料にもとづいた調査であることをいっておく。

研究者のだけれどもが、最初は阿英目録で検索するだろう。以下のとおりだ。

[阿英146] 虚無党 冷血訳。光緒三十年(1904)開明書店刊。

- (一) 白格<sup>77</sup>杜衣児著
- (二) 綺羅沙夫人渡辺為蔵著
- (三) 加須克夫<sup>77</sup>田口掬江著

冷血、すなわち陳景韓が翻訳した見てのとおり短編集『虚無党』である。「綺羅沙夫人」以外の作品については、今は触れない。

ママとしたのは、阿英の書き間違いと思われる箇所だ。これも置いておく。

本稿で問題にする「綺羅沙夫人」の原作は、今までだれも特定することができなかった。そういう種類の作品だ。

意外なところから問題解決にたどりついた。徐兆璋が残した「新書目録」がある。彼は、

進士で1900年代に日本で学び、中華民国成立後に国会議員をつとめたことがある人物だという。原稿で残されていたその「新書目録」を含む文章が、整理のうえ最近まとめて刊行された。徐兆璋著、蘇醒整理『徐兆璋雜著七種』(南京・鳳凰出版伝媒股份有限公司、鳳凰出版社2014.3)だ\*1。

この「新書目録」が、『虚無党』を収録する。細目を示し、次のような説明がある。資料だからその箇所を原文のまま引用する。

虚無党一卷 開明書店本 光緒三十年二月出版

第一白格氏，杜衣児著；第二綺羅沙夫人，渡辺為蔵氏著；第三加須克夫，田口掬江氏著；均冷血訳。

綺羅沙夫人，即喋血生所訳之《専制虎》，《浙江潮》附刊本；米加野，即宓克而愛聖夫人，即綺羅沙夫人也。(後略) 414頁

口絵にある徐の原稿写真をみれば、記号は句読点しか使われていない。上の引用文は、現在中国で使用している記号になっている。編集者が追加したものと思う。そのままにした。

「綺羅沙夫人」は、『浙江潮』に掲載された喋血生訳「専制虎」だと書かれた箇所に注目する。

興味深い指摘だといわなければならない。作品を同時代に読んだ人だからこそ書くことができる。そういう文章だと感じる。今までそのような指摘をした人はいない。

さらには、同じ作品を別人が漢訳したということも理解できる。なぜなら、作品に登場する人物の名前を書き換えているからだ。

「専制虎」の米加野が「綺羅沙夫人」では宓克而同じく愛聖夫人が、綺羅沙夫人となって別物だ。もし同一人物が漢訳したのであれば、作中人物の名前をかえて翻訳する必要はない。

「専制虎」については、渡辺浩司が原作の特

定した。2014年5月26日付の清末小説研究会ウェブサイトに掲げられた「『清末民初小説目録第6版』の訂正」には、次のように書いてある。

「掲載は、『浙江潮』1期(癸卯1.20=1903.2.17)、3期(癸卯3.20=1903.4.17)。徳富蘆花『探偵異聞』(民友社1900.11.24)中の「大隠謀」(もとは『国民新聞』1898.2.10,11,13,15-20掲載)誤植は訂正してある」

徳富蘆花「大隠謀」が原作だというのだ。

以上を考えあわせれば、次のようになる。

蘆花の日本語作品「大隠謀」は、2度漢訳された。すなわち1903年の喋血生訳「専制虎」であり、翌1904年には陳景韓訳「綺羅沙夫人」になった。

田口掬汀作品のばあい、陳景韓は田口を著者としてそのまま記述した。だが、「綺羅沙夫人」については、蘆花の名前を出さずに渡辺為蔵を著者としている。どうしてそうしたのか。

陳景韓は、結果として著者ではない人物名を表示していた。いくら探してもみつからないはずだ。渡辺為蔵は、民友社の関係者である。資料によれば、民友社社員で徳富蘇峰の秘書をやったことがあるという。陳景韓は、どうして蘆花と為蔵を取り間違えたのか。当然の疑問が何度も生じる。

蘆花「大隠謀」は虚無党を内容とする物語だ。だからこそ『虚無党』に収録された。

ウィルソン夫人を中心とした虚無党は、ロシア皇帝暗殺をふくむ大隠謀をたくらんでいた。それを摘発しようと活動するのが大探偵ミカエルだ。

ミカエルは、徐兆璋の説明によると「専制虎」の米加野であり、「綺羅沙夫人」では必克ヒツクになった。両者ともに音訳して日本語原文に近い。

ところが、ウィルソン夫人については、異なる。愛聖夫人は、なんとか近いかと思う。まあ、無理矢理だが。普通は恵而遜夫人とか韋而生夫人にするだろう。そこは漢訳者の感覚によるも

のだから、今さらいってもしかたがない。

不可解なのは、陳景韓が採用した綺羅沙夫人だ。「綺」でない別の漢字を当てればウィルソンにもなるかと思う\*2。「綺」では、日本語原音から離れる。陳景韓は、上海出身だから上海方言だとしても音としては近くはないだろう。これがふたつめの疑問だ。

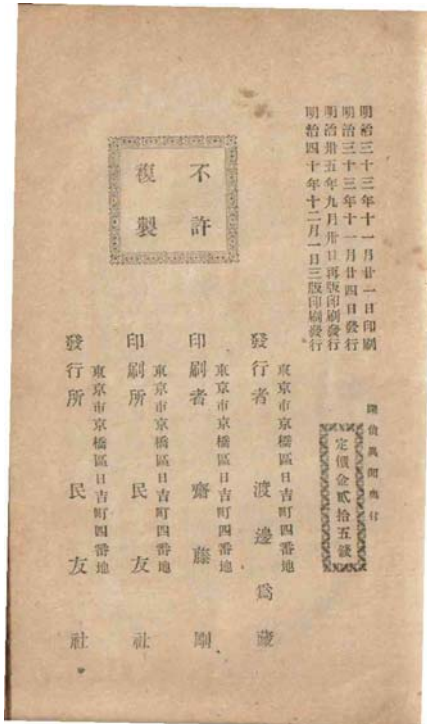
これらの疑問は、『探偵異聞』(民友社1900.11.24 / 1907.12.1三版)を見て氷解した。

#### 疑問1：著者が渡辺為蔵である理由

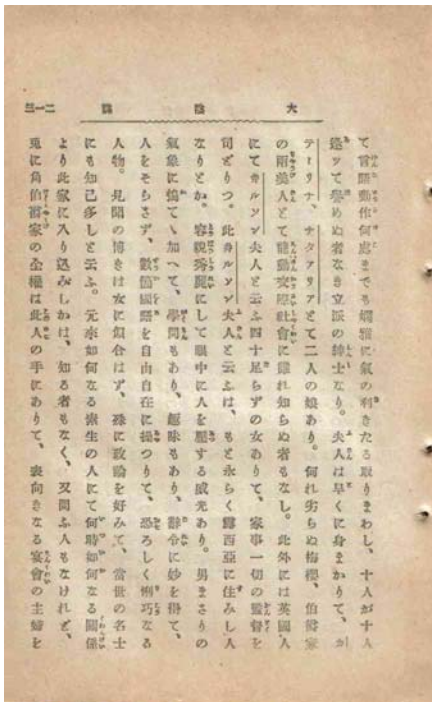
『探偵異聞』は、徳富蘆花の翻訳としてあまりにも有名だ。現在では当たり前のようにして蘆花の名前を出す。しかし、実物には蘆花はでてこない。驚いた。該書には、著者名が記載されていない。発行者として渡辺為蔵の名前が掲げられているだけ。

陳景韓が『探偵異聞』を手にしたのは明らかだ。ところが、その表紙、本文、奥付にも著者名は記載されていない。しかし、著者名を書かないわけにはいかない。そこで彼は、奥付にある発行者・渡辺為蔵を著者として記述したのではなかろうか。だからこそ阿英目録にもそう記





奥付 渡辺為蔵は発行者



録してある。

疑問2：ウィルソン夫人が綺羅沙夫人である理由

蘆花「大隠謀」に出てくるウィルソン夫人の表記を見てほしい。「井ルソン夫人」である。

カタカナで使う昔の「井」は、現代表記では普通「ウィ」になる。

陳景韓は、日本に留学したことがある。彼は、創作のほかに多くの翻訳を出したが、底本はほとんどが日本語の作品だ。日本語を理解している。その彼が「井」が「ウィ」であることを知らないのだろうか。それはありえないと思う。

陳景韓が表記した綺羅沙夫人をもういちど見る。漢語現代音にもとづけば、日本語表記でキルソン夫人になる。もしそうならば、日本語原文の「井」をカタカナの「キ」に見誤ったのだろうか。こちらについても、違う、と感じる。

考えるためのひとつの手がかりは、喋血生が「専制虎」においてウィルソン夫人を愛聖夫人としたことだ。漢字の組み合わせがいかに女性らしい。

陳景韓の綺羅沙夫人も同様ではないか。日本語を正確に音訳するよりも、美女を表現する漢字を選んで命名した。男性の名前を漢訳するときとは明らかに異なる。

原文人名の1字違いにすぎない。小説の全体とは、無関係だといっていい。おまけに当時の中国人読者が、日本語原文を探し出して比較対照するとも思えない。陳景韓には漢訳するときには裁量の自由があった。

陳景韓は、見た目で字面の美しさを優先した。細かいことなど気にしない人らしい。そこに引っかかるのは、私が外国人だからだ。 罍

【注】

1) 関連して次の論文を参照。樂偉平選註「徐兆璋日記中的近代小説與出版史料 以小説林社為中心」『清末小説から』第112-114号2014.1.1-7.1

2) 実際に1字を違える研究書がある。「<sup>マツ</sup>綺羅沙夫人」と表示して渡辺為<sup>マツ</sup>蔵著と作者まで間違う。

「倚」は単なる見間違いだろう。李志梅『報人作家陳景韓及其小説研究』華東師範大学2005.4 2005届研究生博士学位論文。156頁

参考文献：『徳富蘆花探偵小説選』論創社2006.1.30。横井司「解題」

清末小説から

崔文東氏、野間信幸氏よりご教示いただきました。感謝します

崔 文東 新小説與新伝記之間：以晚清女作家湯紅紱  
的翻譯小説爲中心 2013中央研究院明清研究  
國際學術研討会2013年12月5-6日

陳 宏淑 《馨兒就学記》前一章：《兒童修身之感  
情》の転訳史 『翻譯学研究集刊』第17輯  
台湾翻譯学学会2014

陳 漱渝 涉魯十一題 『新文学史料』2014年第3期  
(総第144期) 2014.8.22

薛 羽 【書評】猶如一篇上海的故事 《民国通  
俗小説書目資料彙編》出版 『古籍新書報』  
2015.2.28

陳 大康 論近代小説伝播中の盜版問題 『文学遺  
産』2015年第1期 2015.1.15

宋 声泉 被神話化的《新青年》“双簧戲”事件  
『中国現代文学研究叢刊』2015年第1期(総  
第186期) 2015.1.15

張 元卿 民国通俗小説過眼録(上) 『蔵書家』第  
19輯 2015.2

姜 栄剛 留学生与晚清小説關係考論 『文学遺産』  
2015年第2期 2015.3.15

魏紹昌主編『民国通俗小説書目資料彙編』3  
上海世紀出版股份有限公司、上海書店出版社2014.12

評王小逸《春水微波》 ..... 吳承恵

迷失的“紅樓夢” 讀王鈍根小説《紅樓劫》  
.....王若海、向晚

新瓶旧酒 賈櫛還珠 讀王西神小説《陌上花飛》  
.....王若海、向晚

評平襟垂《人海潮》 ..... 周谷年

讀包天笑《留芳記》 ..... 吳承恵

評馮玉奇《金屋淚痕》 ..... 吳承恵

讀畢倚虹《人間地獄》有感 ..... 程乃珊

因讀朱貞木《七殺碑》而想起的 ..... 錢谷融

猶如一篇上海的故事 《歌浦潮》評析.....王安憶

關於情節、心理描写 《紅杏出牆記》閱後.....王小鷹

略論《春風回夢記》的情節描写 ..... 欽 鴻

平江不肖生《江湖奇侠传》讀後 ..... 樹 棻

平江不肖生《留東外史》讀後 ..... 周 天

評江紅蕉《蕭郎画桜記》 ..... 芮和師

為誰泣路 文言小説《泣路記》讀後感..... 陳 詔

評許嘯天《清宮十三朝演義》 ..... 蔣星煜

《敵芬孫説集》讀後 ..... 唐鉄海

《恋愛之鏡》の善悪觀与新聞写実手法 ..... 吳沢蘊

《人海夢》受人矚目的原因 ..... 沈 寂

《青城十九侠》の奇思妙想 ..... 李関元

不愧為武俠小説巨著 《蜀山劍侠传》簡評... 華耀祥

讀李定夷《吧城雁語》 ..... 劉揚体

怎樣看《広陵潮》 ..... 杜夢璞

讀吳双熱《孽冤鏡》 ..... 芮和師

評何海鳴《老琴師》 ..... 賈植芳

《説不得》閱後 ..... 吳承恵

評汪仲賢《惱人春色》 ..... 吳承恵

張天翼の偵探小説《空室》 ..... 吳福輝

男人的好時光 ..... 陳 村

《新山海經》讀後 ..... 鮑世遠

模仿《紅樓夢》の傑作 讀《金粉世家》..... 袁 進

評張恨水《啼笑因縁》..... 許開墾

濃厚而純潔の感性 《悲苦之愛》讀後..... 彭新琪

《玉田恨史》評介 ..... 張如法

評陳辟邪《海外續紛録》..... 沙菓新

評范烟橋《陸青天祝寿紫花布》 ..... 芮和師

蛻変中的尷尬 《儒林新史》讀後 ..... 沈善增

沈重的感慨 評《十里鶯花夢》 ..... 白 樺

《鷹爪王》の新招与旧味 ..... 陳継光

評趙蒼狂《時代的精神》 ..... 劉揚体

胡寄塵の短篇小説 ..... 劉 金

《十二金錢鏢》の現實主義手法 ..... 李関元

《燕蹴箏弦録》讀後 ..... 陳鳴樹

評秦瘦鷗《秋海棠》 ..... 黄 霖

顧明道和他的《奈何天》 ..... 阿 章

俠骨柔腸繪文章 《荒江女侠》賞析 ..... 蔣麗萍

一出催人淚下的寡婦恋愛悲劇 讀《玉梨魂》  
..... 袁 進

貴在雅俗共賞 評小説《楊乃武与小白菜》... 鮑世遠

只是一本近代文学資料 評《蝶花劫》..... 周 劭

程瞻廬和他的《衆醉独醒》 ..... 馬尚龍

瞻廬的《透視眼》 ..... 殷慧芬